

デジタル採点システム 採用事例紹介



YouMark

デジタル採点支援システム



城北中学校・高等学校

東京都板橋区にある中高一貫の私立男子校。

「人間形成と大学進学」を教育目標に掲げ、高い進学実績を誇る進学校である。伝統校でありながら、近年は教育のICT化を意欲的に進めていることでも注目を集めている。



城北中学校・高等学校

2018年度の中学・高校の入学試験の採点業務にデジタル採点システム「YouMark」をご導入いただきました。「YouMark」の導入を推進いただき、すべての業務を統括された入試委員長の清水団先生と、国語の採点業務を統括された教科主任の仁科伸康先生に、「YouMark」導入の経緯、導入の効果、今後の課題についてお話を伺いました。



デジタル採点は規模が大きいと導入が難しいと思っていた

——清水先生から最初にご連絡いただいたのは今年の8月でした。たしか5月の展示会(EDIX2017)でご覧になっていたのだと思いますが、それまではこういう仕組みがあるのはご存知でしたか？

清水先生：デジタル採点は中学受験塾や予備校で使っているのは知っていましたが、規模が大きいと導入は難しいとは思っていました。ただ、展示会でお聞きしたときに、コスト的にも導入しやすそうで、「これはやれそうだな」という感触がありました。

その後、職員会議でYouTubeの動画を見せて、こういうことをやりたいという話をした記憶があります。

——どのあたりにメリットを感じていましたか？

清水先生：ひとつの目標は効率化でした。時短です。これまでも入試業務の効率化は進めていましたが、さらにという気持ちでした。もうひとつの目標はミスをなくすということです。複数人の採点結果を一致する仕組みは非常に効果的だと感じました。さらに、正答率が瞬時に取れることもメリットが大きいと感じていました。これまでもサンプル集計で正答率を出していましたが、その手間がかかりませんし、正確な情報、客観的な数字を、学習塾関係者や研究機関など外部にすぐに提供できます。

導入までは苦労したが最終的には上手く運用できた

——仁科先生は、当初こういうったシステムを導入するという話を聞いてどう思いましたか？

仁科先生：最初は疑問点が多かったのですが、実際にシステムを見て「これならできるな」という風に思いました。ただ、動画で国語の論述の採点をしているところを見て、「こんなにうまくいくものかな」とも思いましたね。

清水先生：1回目のリハーサルでうまくいかないところがあり、本番の導入を迷う場面もありましたが、2回目は1回目の反省を活かして、本番に近い形での運用がうまくいきました。これである程度安心しましたね。特にインターネット環境が少し不安でした。無線LANのアクセスポイントが100箇所以上あるのですが、回線に不安があったんですね。万が一の場合を考えて教室にセルラーモデルのiPadを持ち込みました。テザリングを想定して準備した訳です。実際には今回を契機に回線を増強して、新年度からの動画でのインターネット英会話もうまくいってますね。とにかく、入試が無事終わってホッとしました。

教科にも採点の文化があるのでこうやりたいという意見は尊重した

——国語の論述は、一部従来どおりアナログで採点いただく形になりましたが、このあたり先生方の反応はいかがでしたか？

仁科先生：これがベストかはわかりませんが、すべて一挙にデジタル化は難しいと感じていました。結果的に一部をアナログ採点する形でうまく運用できるフローをご提示いただいて、安心して採点できましたので、これで良かったと思っています。

清水先生：今回、デジタル採点を導入する上で、教科がこうやってやりたいという意見は尊重しました。結果的に教科が希望する形で導入できて良かったと思っています。採点もそれぞれの教科の文化がありますから、それを尊重しつつ導入することは大切でした。

大きなモニターに採点画面を映し 採点基準を相談するアイデアが生まれた

——実際の採点の現場はどんな感じでしたか？

清水先生：統括者としては、その場にいらなくても進捗がいつでも見れるのは非常に良かったですね。ただ、そうやって見ていると国語の漢字の採点が非常に遅いの気づいて採点している教室を見に行ったんですよ。そうすると、採点画面を大きいモニターに映して、みんなでこまでは○にしよう、ここは厳しく見ようといったことを検討をしていたんですね。ああ、そういうことにも時間が割けるようになったかと非常にうれしかったですね。

仁科先生：採点基準を相談している中で、ひとりの教員が教室にある大きなモニター映して検討しようと言い出したんですよ。



こういうアイデアが出てきたのは良かったですね。実際に映してみると受験者の実際の解答を全員で見ながら検討することができるので良いアイデアでした。デジタルになって採点時間が短縮されたことで、これまでよりも丁寧に採点基準を相談

できる時間ができたのは非常に良かったと思っています。

清水先生：こちらが導入することを決めたときは想定していなかったような、アイデアが出てくるんですね。先日も校外学習にiPad持って行かせたいという話が出ましたが、セルラーモデルを持たせているのですぐに実現できました。新しいことを導入するときには「よくそのメリットがわからない」という教員もいるのですが、導入後に教員から新しいアイデアが出てくるんですね。それぞれの先生が「こういうことをやりたい」という意見が出たときに、すぐに実現できる体制をできる限り整えておきたいとも思っています。

デジタル採点のメリットと比べたら 設定の負担はたいしたことがなかった

——仁科先生はご自身で採点結果が不一致になったものの確認・確定を行っておりましたが、予想よりミスは多かったですか？

仁科先生：3人の採点結果の一致確認で、記号問題なんかでも特別多いという訳ではないんですが、それなりにケアレスミスがあるのを再認識しました。こういったミスはほぼゼロに近いと思っていました。

清水先生：やはり紙での採点をチェックをするのには限界があると思います。試験が連続して続く中で先生方の疲労もあり、ミスが多く出ることがあって、再度の見直しをお願いしたケースもこれまではありました。ミスをゼロに近づけるというのは、学校にとっても受験生にとっても非常に大切なことだと思っています。

仁科先生：点数計算や入力、サンプルでの正答率計算が非常に大変でしたが、それがすべて必要なくなったのも大きいですね。点数計算はミスが出やすいこともあり、非常に慎重に作業していましたが、それがなくなったことでの負担減が大きいです。気分がかなり違いますね。最初はデジタル採点の設定の負担も大きいと感じていましたが、最終的にはそれほどの負担には感じなかったですね。何より、採点ミスがないという安心感、計算作業、入力作業がないというメリットに比べれば、設定の負担は本当にたいしたことがないと感じました。

iPadなど他の機器でも使用できると さらに運用しやすくなる

——「YouMark」にこういう機能があったらという要望はありましたか？

清水先生：WindowsのPCに限られている（Internet Explorerでの仕様に限定されている）ので、MacやiPadなど他の機種でも運用できると良いですね。特に教員向けにセルラーモデルの大き目のiPadを導入予定なので、それが使えると大きいです。キーボードをつなげば十分使えると思います。

仁科先生：国語の記述の採点のことを考えると、iPadを縦向けに使えるペンが使えるのもメリットが大きいですね。実際に採点現場でもWindowsのタブレット型のPCを縦にして机に置いてペンを使って採点している教員もいました。

（「YouMark」は2019年春に全ブラウザに対応可能なHTML5対応を予定しています。）

新しいことを導入していくことに 協力的な気風が学校全体にある

——清水先生は今回の「YouMark」の導入に限らず、ICT機器の導入など、学校内の業務改善を非常に積極的に行っておられますが、そのエネルギーはどこから生まれているのですか？

清水先生：何よりも「こういうことをやりたい」という気持ちが強いですね。これを導入したら何か起こるんじゃないかという期待が大きいです。さきほどの新しいアイデアも同様で、新しいものを導入していくことで化学変化が起こるんですね。

——どの先生も非常に協力的で、先生方の清水先生への信頼が非常に厚いのを感じました。

仁科先生：清水先生が新しいことをやるときは、「間違いなく良いことを起こそうとしてやってくれている」という信頼感が非常に大きいですね。また技術面の知識も豊富で、その部分は絶大な信頼があります。また、新しいことをやって良い結果に導ければという風潮が学校、教員全体にあるのも大きいですね。

清水先生：そういう学校の気風が今回のデジタル採点の導入にも良い方向に向いてくれましたね。



東京都市大学付属中学校

東京都世田谷区成城にある完全中高一貫の私立男子校。
2009年に武蔵工業大学付属中学校・高等学校から現在の名称に改称。
「誠実・遵法・自主・協調」を校訓に、生徒一人ひとりが自己実現を図れるよう教育を行っている。アクティブラーニングをいち早く取り入れ、思考力・判断力・表現力が育つ独自のカリキュラムで教育を行っており、近年進学実績も向上している。

東京都市大学 付属中学校
TOKYO CITY UNIVERSITY JUNIOR HIGH SCHOOL

2018年度の中学の入学試験の採点業務にデジタル採点システム「YouMark」をご導入いただきました。

「YouMark」の導入を推進いただき、すべての業務を統括された草間雅行教頭と、各教科の採点業務に携わった先生方に、「YouMark」導入の経緯、導入の効果、今後の課題についてお話を伺いました。



最初は自分自身半信半疑でしたし 「やめた方がよい」という反対意見も

——はじめてご訪問したのは1年ほど前になりますが、そのあと5月に行われた展示会のセミナーにご参加頂き、具体的な導入検討を始められたということだったと思います。

草間先生：そうですね。最初お話を伺った時は私自身が半信半疑でしたね。そんなにうまくいくかなと。昨年の展示会のセミナーに参加した頃からこれは効果がありそうだと感じはじめましたが、学校内ではPCなどに慣れた教員から「やめた方がよい」と反対意見が出たこともありました。そのあと、夏頃に全教員向けのデモをやっていただき、トライアルを実施、その後9月の校内実力テストで実際に使ってみた訳ですが、ここまでは教員の意見を聞きながら慎重にすすめていきましたね。3学年分を実際にやってみて、その速さを実感しました。この段階ではほとんど反対意見も消えていましたね。そこで入試本番での採用を決定したような形です。その後、12月には非常勤の教員も採点の練習を行い、人数の少ない帰国生入試もリハーサル的になりましたので、ある程度安心して一番大変な2月1日の午後入試に挑めましたね。段階を踏んで進めていけたのが良かったかと思います。

採点スピードが飛躍的に向上 入試当日の教員の負担を大幅に低減

——採点後の成績処理システムの業者との打ち合わせが数回ありましたが、ご苦労はなかったですか？

草間先生：私自身は苦労するようなことはなかったですね。佑人社さんにはお手間をかけましたし、成績処理システム側で少し手を入れるところがありましたが、それほど大きな変更もなく、本番も非常にスムーズに連携が取れたように思います。

——実際入試本番での運用を終えて、どんな感想を持たれましたか？

草間先生：やっぱりまずはスピードが上がったことが大きいです。特に午後入試は、夜遅くまで採点に関わる教員の負担も大きかったのですが、採点スピードは劇的に速くなりましたね。

2018年度計4回の入試の採点時間合計

国語	従来の採点時間を	20%	短縮
算数	従来の採点時間を	48%	短縮
社会	従来の採点時間を	42%	短縮
理科	従来の採点時間を	37%	短縮
合計	従来の採点時間を	33%	短縮

この数字は採点時間だけで集計していますが(従来行っていた採点業務終了後の入力作業含まず)、それでもトータルで1/3は短縮できていますから大きいです。教員の負担も目に見えて減りました。教員側からネガティブな情報も一切出て来ませんでしたね。時間が短縮されたので1つの問題を採点する人数を増やしてさらに採点ミス防止を強化することも可能だと感じました。

個人的にはスキャンする専門の人員を確保すべきだったと反省しています。佑人社さんからは1人で良いのでスキャンの担当者と言われていましたが、うまく人員を割けませんでした。ただ、これも採点業務に割くリソースが少なくてすむので、来年はスキャン専門の人員を確保出来そうです。

採点后すぐに正答率が集計されるのは 出題ミスや不適切な問題のチェックにも

——採点后は全体の正答率を見るだけでなく、上位と下位の受験者の正答率を比べておられましたが、これは従来からやっていた作業ですか？

草間先生：そうですね。全受験生と合格者の設問別正答率を算出してましたが、結果がまとまるのは2月末でした。これが瞬時に集計されるのも大きかったですね。

今回は採点后すぐに合計得点順に並べ、上位と下位を抽出し、それぞれで正答率の計算を行いました。上位と下位の設問別平均点を比較をすることで、問題のミスがないかのチェックも兼ねていましたね。例えば、上位と下位の生徒で正答率が逆転しているような時は、問題に何らかの不備があるか、もしくは入試問題として適切ではない問題であるということが分かります。今回は該当するような問題はありませんでした、合否判定の前にこの集計がしっかりと出来るのは大きいですね。このように採点してすぐに正答率がわかるのは非常に効果的だと思いました。作問側にも非常にメリットが大きいですね。またこの正答率はデータ集(『T-file』)に掲載して、受験生の保護者にも公開します。過去問を解く上で、「このあたりの正答率の問題は合否にあまり影響がでません」というアドバイスがしっかりと出来るメリットもあります。

学校内でのさまざまなテストでも 十分に効果が出るシステムだと思う

——次回以降の作問にも影響があるという声が出ていましたが、このあたりも具体的に実感されることはありましたか？

草間先生：まず、これまではミスがないよう計算がしやすいように配点を揃えることが多かったですが、デジタルだと集計ミスがないので設問ごとにふさわしい配点が設定できるのは大きいと思いました。また、午後入試は時間に制約があるので、出したい問題が出せないこともこれまでありましたので、各教科の教員からこのスピードで採点できるならという声は聞こえてきました。非常に良い傾向だと思っています。

——入試本番のあと、「期末テスト」や「入学前クラス分けテスト」でも「YouMark」をお使い顶きましたが、上手くいききましたか？

草間先生：まず期末テストでは、中2の理科と中3の社会で使ってみました。これまで10時間くらいかかっていた作業が6時間で出来たと報告が上がっています。まだまだ慣れていない部分もありますから、さらにスピードアップ出来そうだと聞いていますし、思っていた以上に効果的だと感じています。

「入学前クラス分けテスト」は設問別に正答率を算出し、それにコメント添えて成績票と答案を生徒に返却しました。これも採点ミスの報告はありませんでした。今後も定期テストでは希望者を募って使っていこうと思っていますし、予算も確保しました。少しずつ増やして行けたらと思っています。

各教科の採点に携わった先生方にも、「YouMark」を使った率直な感想をお伺いしました。



国語

最終的に論述問題は紙とペンの手採点を行うことにしたが、今後はデジタル対応を検討している。

採点が早くなったことは確実だった。

全受験者の正答率が出たことで、次の出題の参考にもなった。

算数

算数は設問の特性上かなり効果が上がった。

事前の設定が時間かかってしまう心配があったが、それほどではなかった。

とにかく採点のスピードが速く、教員のリソースの使い方を考え直す必要があると感じた。入試業務全体でもっと上手にリソースを分散できる。

英語

単語や記号問題の採点正確性は実感できた。事後の集計も不要なのも大きい。

論述問題の採点時間は変わらないが、その間に他の教員が別の問題を採点できることも良かった

社会

採点のスピードが上がったため、今後は作問も変えていけると感じた。数年前までは論述を出していたが、合格発表までの時間の関係などで出せていなかった、近い将来論述問題を出しても良いのではという意見が出ている。

理科

採点が早いので、今後は1つの問題を採点する人数をさらに増やしても時間が足りると感じた。さらにミスがなくなる安心感がある。

正答率を出す作業はこれまでかなりの手間がかかっていたので、瞬時に出来るのは非常に嬉しかった。

マニュアルはあるのだが、トラブルシューティングのような、こういう時はこうすると良いというリファレンスがあると良い。

どの教科も「スピードアップ」「採点ミス削減」「正答率の即時集計」というデジタル採点ならではのメリットを十分に感じていただけており、非常に手応えを感じるものでした。また、入試当日の教員の労働力や正答率の活用方など、副次的なメリットを見いだしておられる先生もおり、入試業務に貢献できているという実感の大きいインタビューでした。



広尾学園 中学校 高等学校

東京都港区南麻布にある私立の中高一貫校。

2007年に順心女子中学校・高等学校から現在の名称に改称し共学化。共学化とともにインターナショナルコースを設置するなど、その後も本格的な進学校への改革を進め続けており、各方面から今最も注目を集めている学校のひとつである。



広尾学園 中学校
高等学校
HIROO GAKUEN Junior & Senior High School

2018年度の中学・高校の入学試験の採点業務にデジタル採点システム「YouMark」をご導入いただきました。

「YouMark」の導入を推進いただき、すべての業務を統括された、教務部統括部長の石田敦先生に、

「YouMark」導入の経緯、導入の効果、今後の課題についてお話を伺いました。



採点の現場をよくわかっている人が 作っているシステムだと思った

——最初に石田先生にご紹介に伺ったのは昨年の7月でしたが、それまではこういうシステムがあるのをご存知でしたか？

石田先生：生徒が受験する大規模な模試の返却答案などを見て、何かそういうシステムがあるんだろうなとは想像していましたが、様々な制約がある中高の入試現場で役立つものだとお話しただくまではほとんど考えていませんでした。ただ、最初にご紹介いただいたときからこれは良いなと感じました。

——その後、トライアルを実施したあとに10月に改めて伺いました。そのときは先生方がたくさんいらっしゃる中、ご説明をさせていただきましたが、反対意見などは出ませんでしたか？

石田先生：事前に私と教科責任者として説明を聞いた時に、「これは現場のことをよく理解して作られていて良いね」という話が出たことを覚えています。学校に対してICT関連のツールの話は比較的頻繁にあるのですが、中には実際の現場に即しておらず、導入が難しいものが多いのも事実です。その後、多くの先生の前で説明して頂いた際には、主に論述問題の採点について懐疑的な意見や疑問・質問が出ましたが、それらに対して一つひとつ的確に回答して頂いたことで同意を得られたと思っています。

ネットワーク経由で使えることと 多くの実績・低コストが導入のポイント

——その中で「YouMark」を最終的に選んでいただいたポイントはどこでしたか？

石田先生：採用にあたっては他社のシステムも数社比較検討しました。その中でもYouMarkが優れていたことのひとつは、アクセスが管理されたネットワークを介して運用できるということです。入試の限られた時間の中で採点を行うためには、USBメモリ等で情報を交換しては間に合わなくなってしまいますし、セキュリティ上の問題もあります。そして費用面も魅力的でした。初年度はパッケージ(出張サポート等)の金額がかかるとしても、2年目以降のことまで考えれば非常に安いですからね。最後に、学内で同意を得るためには既にたくさんの導入実績があったのも大きかったです。様々な条件を考慮すると、他のサービスと比較しての優位性は明らかでした。

——ご採用にあたって不安に思うところはなかったですか？

石田先生：タイミング的に事前の準備が間に合うかということと、トラブルなく時間内にやれるかどうかは不安でした。10月に学内の定期試験のデータを用いてトライアルを行いました。先生方もなかなか細部までは入試と同じようにはやれない面がありましたので。幸いなことに本校は12月に国際生入試があり、2月の入試に比べて規模が小さいことや時間的な制約が緩いことから、ここから本格的に実施しました。ここで問題なくやれたことで不安も減りました。また、そこでの経験を2月の入試に生かしました。アクセスが集中することによる無線LAN環境についての不安もありましたが、普段の授業での使用実績があったことから、ある程度うまくいくだろうという目論見は立っていました。

心配だった記述問題の採点も 実際にやってみたら杞憂だった

——その後、2月の入試本番を迎えるわけですが、実際に使ってみての印象はいかがですか？

石田先生：とにかく良かったのひとことですね。先生方からもこれは良いねという声が私のところにたくさん届きました。客観式問題の採点がとにかく速い。そして紙を回して採点する訳ではないのでバタバタして現場が混乱することはありませんでした。そして得点計算、データ入力がいらなくなる。とにかく手間が少なくなりました。当初大丈夫かどうかという声があった記述・論述問題も、「実際にやってみたら大丈夫だったという意見が多い」と聞いていましたが、実際そのとおりでしたね。先生方も本当に採点現場のことをよく理解して設計されていると感心していました。

正確性の向上、スピードアップ、進捗管理 の容易さ、正答率瞬時集計がメリット

——大きくメリットを感じられたのはどういうところですか？

石田先生：まずは正確性が増すこと。これまでも採点ミスを防ぐための多重チェックはしていましたが、全体の時間を削減しつつも確認回数を増やすことができました。また、一度採点した答案を見ての複数回採点はどうしても最初の採点結果に引きずられてしまう（先入観がはたらいってしまう）のに対して、YouMarkは2回目、3回目の採点であっても真っ白な状態で採点しますから独立性が高まり、結果的にミスが減ります。次のメリットはスピードアップです。先生方の負担を大幅に軽減できました。さらに採点の進捗がビジュアルで管理できるのは立場的に助かりました。限られた時間の中で採点を行う都合上、いつ終わるかの予測が立つことは非常に大切です。紙でやっている時は本当にわかりにくく、採点をしている教科担当であっても正確には把握できておらず、感覚頼みの面がありました。最後に、これが最大のメリットかもしれませんが、正答率がすぐに出せることです。これまでも採点が終わってから一枚一枚手作業で集計してデータを取っていました。全ての入試回の全ての教科の全ての答案の全ての問題の正答率を数えることは膨大な作業量ですが、YouMarkなら採点が終わった瞬間に正確なデータが出せる。これは大きいですね。

入試問題が機能しているかどうかは 正答率分析でわかる

——正答率が出せることはどんなメリットがありますか？

石田先生：入試問題がしっかりと機能しているかどうかは、合格者と不合格者の正答率の差を見ることで分析できます。平均点が同じ試験だったとしても、全ての問題の正答率が同じだった場合と、様々な正答率の問題がバランスよく配置されている場合とでは、その試験の「分解能」は全く異なります。学校として合格者・入学者に求めたい学力があるかどうかを見極められる作問だったかどうかを知るためには正答率が重要です。今年は労力をかけずに

とても正確なデータを得ることができましたから、しっかりと分析を行って次年度の作問に生かしたいと思っています。入試問題の質を向上させるためには、感覚ではなく正確なデータが必要で、すし、教科担当（作問担当）と話す際にも説得力が生まれます。

——学校の現場で我々が持つてゐるノウハウが活きると思っていまへんでしたが、どうすれば上手く採点できるか先生方も非常に謙虚に聞いてこられたのが印象的でした。

石田先生：学校の校風としても新しいものを取り入れていこうという意識が高いことがあると思います。学校が15年くらい前に時代の先端に行くような教育をやっているといふと大きく変わったので、若い力でやってきたところがあるんですね。変わらなさいいけないという学校の雰囲気があることが、今回のことが上手くいっただけの一因でもあると思います。とは言っても比較的ベテランの先生が多い教科からも「これは良いね」という声がたくさんありました。記述が多い他の教科も同様でしたね。

アカウントの権限をもっと細かく 設定できることが今後の要望

——実際運用してみたの課題・要望はありますか？

石田先生：非常に良いシステムなので、すぐに多くの学校で採用されると思うんですね。そうするとサポートのマンパワーが足りなくなるのではという懸念はあります。今回も2/1と2/2はサポートに来てもらっていたので、安心感がありました。ただ、2/5は来てもらわないことにしたんですね。自分たちで解決できないトラブルがあったときに、今回はすぐに電話で対応してもらえたので助かりましたが、今後も大丈夫かという不安はあります。そのあたりが課題でしょうか。（佑人社では、社内に電話サポート要員を十分に用意するなど、ご採用いただいた学校にご迷惑をかけない体制を作っていくことをお約束しました。）

また、2種類の権限（管理者と採点者）のアカウントしかないのは少し気になります。情報管理と利便性という相反する目的のために、もう少し中間の権限のアカウントがあると運用がしやすいと感じました。個人ごと、グループごとにやれることやれないことを設定できると非常に良いですね。ここは改善を期待したいですね。





帝塚山中学校 高等学校

奈良県奈良市学園前にある私立の中高一貫校。

授業は男女別クラスで、課外活動や全校行事等は合同で行う「男女併学」制度を採用しており、知識のみに偏らず総合的な人間力を高める伝統の「力の教育」で、高い知性と豊かな情操を備えた、次代をリードするたくましい人間を育てている。

帝塚山中学校 高等学校

2018年度の中学・高校の入学試験の採点業務にデジタル採点システム「YouMark」をご導入いただきました。「YouMark」の導入を推進いただき、採点関連業務の統括を担当された、情報センター長でありICT実行委員長の永友裕先生と、各教科で採点に携わって頂きました先生方に、「YouMark」導入の経緯、導入後の効果、今後の課題についてお話を伺いました。

他校で運用できているなら 自分たちもできるはずだと思っていた

—— 昨年の展示会からご採用を検討いただいたと思いますが、永友先生はこういったシステムがあるのはご存知でしたか？

永友先生：実は2年前の展示会で佑人社さんのブースにお邪魔しているんですね。そのときにデジタル採点のお話は伺っていましたが、本校ではあまり効果的だと思っていませんでした。その後、昨年導入された学校の話和管理職が聞いてきて、「劇的に早くなる」というから本校では導入できないのか話を聞いてくるように言われましたね。それは確かに早くなるなどは思っていましたので、お話を聞いてすぐに「うちでもやれる」と報告を上げましたね。

—— 10月に先生方を集めた会議の席にお邪魔しましたが、その時にはもう採用は決定していましたか？

永友先生：ちょっと微妙なタイミングでしたが、教員向けにはやる方向だと伝えていましたし、私自身もやるつもりでおりました。教員の中からは不安を感じる声もありましたが、「他校でやっているものはうちでもやれる」というのが自分のコンセプトにあるのと、前年に難航したweb出願に比べると、本校用に合わせる必要がないので、それほど複雑ではないと思っていましたね。何より、数年前から午後入試を始めたこともあり、採点が深夜までにおよび、教員の負担が大きいという状況の中で、採点時間の短縮が学校にとっては大きな課題でした。そこで他校で大幅な短縮を実現できているという話も聞いておりましたから、是非とも導入したいと思っていましたね。

システムの効果は期待以上 採点の操作が簡単なのもよかった

—— 導入を決めて頂き、一番大変な中学入試初日、午前入試、午後入試の日を迎えた訳ですが、実際に本番業務をやってみての感想はどうでしたか？

永友先生：正直に言って、システムの効果は期待以上だったと思います。設定は別として、採点ユーザーは本当に簡単な操作でストレスがないと思いましたね。私はマニュアルを配布しましたが、読んでない先生でも何となくできる仕組みだなと感じました。PCの操作に不慣れであっても、まわりの人に聞けばわかるレベルなので、安心していました。出題委員の先生には前日に設定をやってもらいましたが、これも個人差はあるものの思っていた以上に大丈夫だなと思いました。



デジタル採点のメリットは大きく 教員もその特性をよく活かした

——実際に採点に携わった先生方はどんな感想を持たれましたか？

赤阪先生：ひとつ非常に助かったことがありました。1問全員マルにしなければいけない問題が発生したのですが、瞬時に対応出来たのは良かったですね。紙での採点ならすべての答案をめくって確認して、しかも点数計算、入力もやり直さなくてはならなかったですから、深夜におよんだのは間違いなかったです。

小林先生：とにかく採点が早かったです。採点のスピードが上がるので、出題する問題も変えていけると思いました。今まではどうしても採点時間がネックになり、本来出したい問題が作れなかったこともありました。

西川先生：電卓を打って点数計算する必要がないのは本当に助かりました。それだけでもかなりの時間短縮になっていると思います。

小林教頭：国語の論述問題は、当初これまでどおり作題委員の先生が採点していたのですが、システムの特性を活かして、2日目からは軌道修正して作戦を変えたのが上手くいきました。

永友先生：最初はちょっとバタバタした教科もありましたが、2日目以降は高校入試も含めて非常に上手くいきましたね。どの教科も上手く適応できたと思います。また、これまでの採点方法を想定して問題を作っていたので、採点の進め方、システムを想定して問題や採点基準を作ることになろうかと思っています。

来年は人員配置変えることも含め 運用方法はいろんなオプションが使える

——次年度に向けて考えておられることはありますか？

小林教頭：今年はひとまずこれまでどおりの人員配置、運用方法で採点を行いました。来年は変えるオプションもあると思っています。教科の採点スピードのばらつき具合も見えてきましたので対応できます。採点と監督を分けるとか、記号問題ならどの教科でも対応できるので他の教科を手伝うとか、いろんな案をこれから考えていきたいと思っています。

小林先生：出題委員の教員は毎年変わるので、設問設定のやり方は各教科で上手く引き継げれば良いなと思っていますが、ここはひとつ課題です。やはりもう少し手順がわかりやすいと良いなと思っています。マニュアルを見なくても画面を見て手順がわかるようになっていると助かりますね。



入試問題を作成する担当者にとって 正答率の情報は非常に役立つ情報

——小問ごとの正答率の情報は出題委員の先生方がよく見ておられましたが、かなり役に立っていますか？

永友先生：これは非常に役立ちますね。自分で作った問題の正答率は特に気になる情報です。同じ問題で複数のコースの合否を判定しますので、難易度の傾斜はかなり慎重に作らなければならないのですが、ここが思い通り作れているかはポイントになります。正確な正答率の情報がしっかりと取れて、分析に使えるのは大きいですね。

定期テストでのYouMark運用時は 効率化よりも教育効果がメインになる

——定期テストでの利用も検討しておられると聞きましたが、この正答率の情報はここでも役立つでしょうか。

永友先生：これは入試の時以上に重要になると思います。ここが授業でちゃんと教えられていない、伝わっていないというのがしっかりと分かりますから、学年を引き継ぐときには次の教員にしっかりと伝えたい情報でもあります。正答率の情報を一緒につけて返しても良いと思います。そういう意味では、入試とは逆転して効率化よりもテストの効果を上げる、生徒の指導という意味合い、教育効果が主になると思います。定期テストで使っていくためにも、もう少し使いやすいシステムになることを期待しています。



清風南海中学校／ 清風南海高等学校

大阪府高石市にある男女共学の私立中高一貫校。
大阪府有数の進学校であり、国公立大学や有名私立大学への合格者を
毎年多数送り出している。タブレット端末の導入、
全教室への電子黒板の設置などもいち早く行い、
ICTを利用した教育の充実にも力を入れている学校である。

2017年度の中学・高校の入学試験の採点業務にデジタル採点システム「YouMark」をご導入いただきました。

「YouMark」の導入を推進いただいた、教務部次長でありICT委員会座長の折戸正紀先生、
実際のYouMark設定・管理を担当された事務の裏山隆一様、採点後の集計作業を担当された事務の嶋田千尋様のお三方に、
「YouMark」導入の経緯、導入後の効果、今後の課題についてお話を伺いました。



デジタル採点は費用がかかり、
校内では使えるものではないと思っていた

——最初に折戸先生にお目にかかったのは、
2016年5月の展示会、東京ビッグサイトで行われた
「教育ITソリューションEXPO」でした。そこで
「YouMark」をご紹介させていただきましたが、
ご来場いただくにあたって入試の採点のことは
念頭にございましたか？

折戸先生：まったく考えていませんでした。タブレットなど生徒
向けのICT関連の情報集めでした。でも、佑人社さんのブースで説
明を伺い、デモを拝見して「これは！」と思いました。

——デジタル採点自体はすでにご存じでしたか？

折戸先生：数年前からそういったものがあるのは知ってしまっ
たが、費用がかかり学校内で使えるものではないだろうと思って
いました。入試の採点業務は例年大変でしたが、大幅な改善は見込
めず、ある意味仕方ないと感じていました。ですが、展示会で実
際にデモを見て、これは入試で役に立つなという実感を得ました。

導入決定までは苦労したけど、
「これは面白い」と思って導入を進めた

——そのあと、導入決定まではすんなり話が
進みましたか？

折戸先生：スタートは早かったですね。5月の展示会から戻ってす
ぐに管理職などには話をし、中学受験のプレテストでどうかと
いう意見も出ていました。そのあと6月に佑人社さんに先生方の前
でデモをして頂き、多くの先生方から好感触を得ましたが、国語の
論述問題の採点やクラウドの利用のセキュリティの問題など、様々
な懸念事項が出て来て、導入の検討には時間を要しました。8月頃
には自分自身が忙しかったこともあり、一時は今年度の採用を見
送ろうかとも思いましたが、「採点のスピードアップ」「採点ミス削
減」というメリットとともに、「これは絶対に面白い」という確信が
あり導入を進めました。当然、実際にメリットが出るだろうという
確信もありましたね。

夜遅くに開催されていた
合否ライン判定会議が
早く始められるようになった

——実際にご導入頂いて、入試本番当日は
かなり変化があったと思いますが、いかがでしょう？

折戸先生：採点は早く終わりましたね。各々の教科の採点は夜遅
くまでかかっていたのが、午後早い時間、もしくは夕方には完了し
て、先生方は通常業務に戻っていました。また、夜遅くに行ってい
た合否ラインの判定会議も早い時間にスタートすることが出来ま
した。夜までの作業を想定して、先生方用に夕食のお弁当を用意
しているのですが、中学入試のB日程や高校入試では、早く終わっ
たためお弁当を持って帰るような状況でした。スピード面ではか
なりの効果が出たと実感しています。

4人の採点結果の一致確認を行うことで、採点ミスが出ていないという安心感があった

——ほとんどの設問を「4回採点モード」で行われましたが、結果としてどんな感触でしたか？

折戸先生：従来の紙の採点でも1人が採点したあとに3回はチェックを行っていましたので、同様の4回採点というのは時間的に十分可能だと判断して行いました。トライアル的に使用した中学入試のプレテストの段階では採点スピードが速い分、思っていた以上に不一致になるものも多く感じましたが、本番の入試では先生方一人ひとりの採点精度も上がり不一致もかなり減りました。また、4人での採点の一致確認を行えば採点ミスになるものはないという安心感がありました。

体系化されていて 設定や管理は覚えやすかった

——ほとんどの設問設定、採点振り分けなどを裏山様が担当されましたが、使い勝手はどうでしたか？



裏山様：設定メニューは、試験全体の設定から教科、受験教室、小問の採点方法や採点者の権限まで体系化されていてわかりやすいと感じました。試験ごとに採点の方法も変わるため、設定方法も変更しますが、試験の1週間前には各教科担当の先生から問題数などを基本的な事項を確認して、設定し、試験当日は採点直前に模範解答を登録するだけで余裕をもってできましたね。試験の設定が一度できると、次の試験にコピーできる項目が多く、一度設定してしまえば、あとは簡単で大丈夫という感覚がありました。また、試験採点中に応援のため採点する先生の権限追加や採点結果の検証のための設定追加等、採点作業と採点結果確認等のスピードアップが比較的簡単にできたのが非常に良かったと思います。

採点後の入力作業がなくなったのは非常に効果的だった

——採点後に行っていた嶋田様の作業について教えて下さい。従来の採点と大きな違いはありましたか？



嶋田様：かなり変わりましたね。YouMarkからは採点結果が小問毎の得点としてダウンロードできるので、従来の大問得点集計のプログラムを小問集計用に改良しました。YouMarkからのファイル出力は自由に列指定ができるので、すぐに連携が取れました。また、入力作業がなくなったことも大きかったですね。これまでは、採点結果が入力できるように特別にPCをセットアップし、セキュリティを確保した部屋に用意していましたが、その必要がなくなったことで負担がかなり減りました。さらに入力後のチェック等の作業も少なくなりましたので、全体の作業がかなりはやく終わったという感触がありました。受験者の採点結果を確認するのに、CSVデータだけでなく、受験番号で検索して答案用紙をすぐに画像で確認できるのも大いに役に立ちました。

折戸先生：採点がやっと終わってからの得点入力作業は先生方にとっても精神的に非常につらいものでしたので、これがなくなったのは大きな負担軽減になりましたね。担当の先生にも喜ばれています。

今後の出題内容にも変化が より良い入学試験が実施できる

——「YouMark」のメリットを十分に活かして入試の採点業務に当たって頂いたと感じていますが、それ以外に変化はありましたか？

折戸先生：これまでは、採点を「ミスなく」「早く」終えなければという課題がありましたので、どうしても採点しやすい出題形式にしがちなところがありましたし、配点も計算しやすい形を考えて作っていました。採点のデジタル化によって、我々がより出題したい形式で入試問題を作成し、受験生の学力をより正しく評価できるようになると感じています。小問の正答率を簡単に分析できるようになったのも大きいですね。問題作成の担当者は事前に正答率の予想を立てているのですが、これを全問題完全にチェックすることが可能です。受験生の学力を測るのに妥当な問題だったかどうか、春以降に徹底分析を行うつもりです。これも次年度以降の出題に影響を与えていると思います。入試の問題内容をより良いものに出来ることは思ってもいなかったメリットでした。



桃山学院中学校高等学校

大阪市阿倍野区昭和町にある中高一貫教育の私立中学校・高等学校。
キリスト教の自由と愛の精神をモットーにしており、
自由な校風が特長の進学校である。



桃山学院中学校高等学校
St. Andrew's School

2017年度の中学・高校の入学試験の採点業務にデジタル採点システム「YouMark」をご導入いただきました。
入試業務改善の中心であり、「YouMark」の導入検討、実際の導入方法の決定、
入試当日の採点業務運営でも中心として携わっておられた田中智晴先生に、
「YouMark」導入の経緯、導入後の効果、今後の課題についてお話を伺いました。



きっかけは、中学入試のプレテストの 改善と先生方の負担軽減

—— まずは、佑人社・「YouMark」を知ったきっかけを
教えて下さい。

田中先生：佑人社さんとの出会いのきっかけは、中学入試の「プレテスト」の採点依頼の打診でした。11月に開催するこの「プレテスト」は、同時に保護者向けの入試説明会を中学・高校と開催しており、人手が足りなくなります。また、プレテストは受験生やご父兄に学校をアピールする良い機会でもありますので、個人成績票を良いものにしたいという思いがありました。以前は大問得点だけの情報でしたが、昨年から小問の正誤を分析した成績票に変更しました。ただ、採点結果の入力作業が大変でした。このようにサービスを向上させると負担がかかると感じており、採点を外注してはどうかと考えて、インターネットで業者を検索したのがきっかけです。そこで佑人社さんにお電話して、「YouMark」をご紹介いただきました。

デジタル採点は意外と 手間がかかると思っていた

—— ご連絡頂いた際に、弊社での採点の請け負いも
可能だが、貴校内でデジタル採点をしてみてはどうかと
ご提案しました。その段階ではデジタル採点に
どんな印象を持っておられましたか？

田中先生：デジタル採点の存在は知っていましたが、手間がかかるのではないかとイメージを持っていました。問題の形式が制限されるとか、解答用紙の体裁が決まっているとか、そんな印象がありましたが、佑人社さんの話を聞き、また「YouMark」の紹介動画を見て、「高校入試でデジタル採点を行うのは効果がありそうだな」と思って、情報を集めました。

トライアルで運用したプレテストで 採点時間が大幅に短縮！

—— まずはプレテストで試しに「YouMark」を
使って頂くことになりましたが、実際使ってみての
感想はどうでしたか？

田中先生：とにかく採点が圧倒的に速かったです。これまでのメンバーで人数を増やさずに行いましたが、全体の採点時間がおよそ3分の1に短縮されました。国語の論述問題の採点が遅かったという課題もありましたが、これはデジタル採点とは関係のないところで改善が必要なものでした（後日の入試本番では改善されたとのこと）。このプレテストでの導入で、多くの先生方からも「とにかく速い」との声をもらい、トントン拍子で採用を決定しました。採用にあたって、同様のサービスを行っている会社に、いくつか電話しましたが、解答用紙に制限があるなど、融通が利かない感じがして、佑人社さんの「YouMark」の採用を決定しました。

夜遅くまでかかっていた 高校入試の採点が夕方には完了

—— 実際の入試本番での採点はどんな様子でしたか？

田中先生：本番でもとにかく採点は圧倒的に速かったです。中学入試も高校入試も採点時間は同じように3分の1で終わりましたね。中学入試はそもそも当日夕方の合格発表ですので、厳しいスケジュールでの採点作業、合否判定の会議という日程でしたが、会議までにかかなり余裕を持って採点を終えられました。高校入試は例年22時頃まで採点作業を行っていましたが、夕方にはすべての採点を終えて、先生方はみんな早く帰宅できるようになりました。非常に効果が大きかったです。これまで、高校入試当日は夜遅くまで採点してヘトヘトになって帰るという先生方にとっては特別な日でしたが、今年は「普通の業務だな」という声をたくさん聞きました。いつもの普通の日と変わりが無いという印象を持ったようです。

労働環境の改善と 人件費削減を実現できた

—— 採点が早く終わったことで、学校としてはどんなメリットができましたか？

田中先生：採点に携わった先生方の多くは入試翌日も会議や合格通知の発送など、様々な業務があります。まずは先生方一人ひとりの負担を減らすことができたのは大きいですね。それほどお金をかけずに時間短縮をすることが出来たという実感があります。採点を終えてからの入力作業や、入力結果の読み合わせといった作業が完全になくなったことも大きなメリットでした。また、学校としては、夜遅くまで多くの先生方が採点に携わっていた状況を考えると、人件費の削減というメリットもありました。私自身はこれまでも校内で様々な業務改善を行ってきましたが、先生方の雑務への負担を減らし、本来の業務に時間を割いて欲しいという気持ちでやってきました。まあ、私自身が楽をしたい、効率化したいという思いも強いんですけどね。

小問の正答率がすぐに出せるというのは 教科の担当者に大きなメリット

—— 採点が早く終わったのが一番のメリットだと思いますが、それ以外にデジタル採点を導入したメリットはありましたか？

田中先生：採点が終わった直後に小問の正答率のデータが欲しいと言われ、各教科の責任者に渡しました。入試結果の分析、今後の入試問題の作成にも大いに活かせる情報だと感じています。また、複数人で採点を行い、その採点結果が不一致だったときにそれを改めて確認する仕組みは、採点ミスが起こりにくいという安心感がありました。これも大きなメリットだと感じています。心配していた、国語の論述問題の採点もトラブルなく終わりました。担当する先生方がその問題に専念できること、採点作業を設問ごとに分業できるのも全体の効率を考えたときに効果的だと感じました。紙での採点では実現できなかったポイントですね。

YouMarkがさらにバージョンアップして、 普段使いが出来るとベスト

—— 逆に、「YouMark」を使ってみて、運用にご苦労されたポイント、今後の課題などあれば教えてください。

田中先生：「YouMark」の設定や管理は5～6人の入試関連業務のグループで担当しました。当初は設定に戸惑うところがありましたが、最後は完全にマスターしていましたね。来年度の入試では、佑人社さんのフォローなしに運用出来ると確信しました。特に、採点業務の振り分けが難しく、当初はマニュアルにとらめっこして、佑人社さんに聞きながら行いました。この部分は機能改善ができるというなと思っています。先生方の中には普段の定期テストや、実力テストで使いたいという声もありますが、このあたりの機能改善が進み、設定がしやすくなれば、可能だなと思っています。現状では、「YouMark」を利用して採点するのは、学年全体600人が受験するテストの時に限るかもしれません。今後の「YouMark」のバージョンアップに期待したいですね。

実際に入試当日の採点業務に携わった、保健体育科教諭の松村諭先生にもお話を伺いました。



保健体育科の教員はグループになって、様々な教科の採点をお手伝いしました。最初デジタル採点を行うと聞いたときは、よく分からず少し不安な気持ちでしたが、操作方法も分かりやすく、すぐに手採点より圧倒的に速いという実感をえました。特に記号問題など客観問題のスピードは圧倒的で、楽しみながら、でも絶対にミスはしないという気持ちで半ば競い合いながら採点を行った印象があります。誰が間違えたのか、がすぐにわかるので緊張感を持ちながら、

不一致確認で自分の名前が出ないように気をつけて作業しました。進捗がグラフで出ているのも、ゴールが見えている感覚があり、高いモチベーションで作業が続けられました。最後、すべての採点が終わったときは、先生同士でも「こんなに早く終わるのか！」とお互い驚いていましたし、最後の瞬間はみんなが進捗を把握していたこともあり、先生方から拍手が起こりましたね。普段の定期テストの採点でも使いたいとみんなが声を揃えていましたね。

株式会社 野田塾



愛知県津島市に本社を構える老舗の大手学習塾。
愛知県下に64校舎を擁し、約10,000名の生徒が通う。



山田豊様



川合里沙様

2013年度より塾内でのテストの採点業務にデジタル採点システム「YouMark」導入。
今回はテスト業務全般の責任者の山田豊様と、実際に「YouMark」の設定・管理を担当されている川合里沙様に、「YouMark」導入の経緯、導入後の効果についてお話を伺いました。

試験当日に答案は持ち帰り、
夕方にはwebで解説動画を見て、
夜には成績表と採点済答案がアップされる

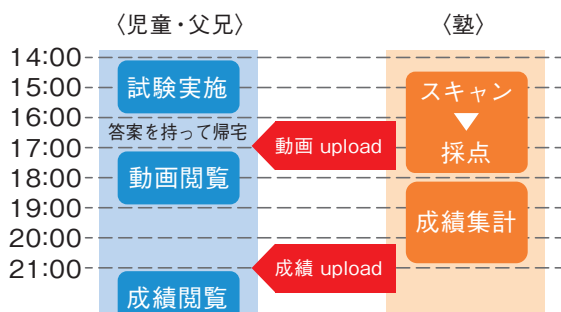
—— YouMarkを導入頂いて3年ですが、最初にご使用頂いたのは小学生の月例テストでした。
導入の経緯、現在の運用について教えてください。

山田様： 佑人社さんの採点システムは以前から知っており、これを使って業務改善できないかというのは塾長も以前から申し出ておりました。この時期、専任講師の一番の負担になっていたのが、月例テストの採点業務でした。当時は各校舎で手採点を行っていましたが、専任講師にとっては、非常に負担が重く、校舎によって負担の不公平感もありました。また、返却まで1週間近くかかっていたのも課題でした。そこで各校舎にスキャナを導入し、「YouMark」による採点に踏み切りました。

川合様： 当時は私も校舎で教鞭をとっておりましたが、この採点業務の負担は非常に大きかったです。授業で疲れたあとに締切のある採点に追われているような印象でした。

山田様： 現在は各校舎で14時から試験を開始し、終わった教科から順次スキャンし採点を開始します。採点は各校舎に分担する設問を決めています。試験は16時に終了し、児童は未採点の答案を持って帰宅します。すべての採点が終わるのがだいたい18時。ここから集計作業を行い、21時頃にはwebに成績データと採点済答案がアップロードされます。また児童には17時にアップロードされる模範解答、解説動画、類似問題を使って、ご父兄と一緒に自己採点、復習をすることを勧めています。とにかく1日ですべて終わらせる形を作れたのが良かったですね。動画の閲覧率はほぼ100%、成績も90%以上のご父兄が当日にご覧になっています。

小学生の月例テストのタイムスケジュール



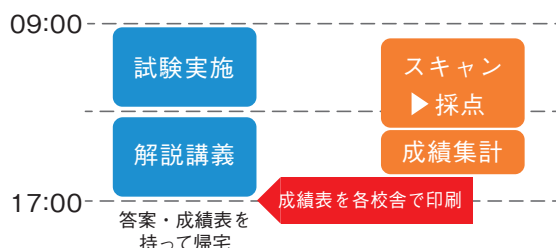
お正月の中3「入試速解ゼミ」は YouMarkがあったから復活出来た企画

—— 年末年始の入試速解ゼミはすごいですね。
3,000名以上の5教科の答案を実施当日に採点し
成績表を配布されていますよね。

山田様： これは実は以前に行っていた企画で、合格答案作成のための実戦力養成特訓として野田塾の看板企画でした。手採点で行うにはあまりにも講師の負担が重いものでしたが、小学生の月例テストのデジタル採点が慣れてきたことで、「これなら復活させられる！」と塾長から声がかかり実現させました。今年は1月2日と3日の2日間行いました。午前中に試験を実施し随時各校舎でスキャンし、午後は解説講義を行います。その間に全校舎のスタッフで分担して採点を終え、本部で成績処理を行います。成績表は各校舎に配信し印刷、帰りに生徒に手渡します。

川合様： 実は小学生の月例テストよりすんなりと運営できていますね。スタッフが十分に確保されているのと、全校舎がこの企画の運営に集中できているからだと思います。

入試速解ゼミのタイムスケジュール



とにかく採点ミスのクレームがなくなった

—— YouMarkを上手にご利用頂いて、塾の運営に
活かして頂いていますが、一番のメリットは何でしょうか？

山田様： 当初は講師の負担軽減、採点期間短縮というのが一番の目的でしたが、導入した後で感じるの、とにかく採点ミスがなくなったことです。2人で採点して一致確認するこの形が効果を発揮しています。また分業して作業できるようになり、設問ごとに採点チームを分けることで、採点基準が均一化できたことも大きいですね。採点期間を短縮しつつ、より良い採点を実現出来ています。

株式会社 進学舎



年間受験者数合計12万人の北海道最大の公開模擬試験「北海道学力コンクール」を運営する株式会社進学舎。「道コン」と呼ばれ親しまれているこの模擬テストは、進学舎が社内で企画、運営、成績処理、入試動向分析などを、一貫して行っています。

北海道学力コンクール **do-con**



櫻井圭祐様

小関敬充様

2012年度より主催している模擬テストの採点業務に、デジタル採点システム「YouMark」をご導入いただいております。模試の成績処理業務を統括されている小関敬充様と、採点業務を統括されている櫻井圭祐様に、「YouMark」導入の経緯、導入後の効果、今後の課題についてお話を伺いました。

自分たちで採点を行う上で フレキシブルに使えるシステムだと感じた

——もう5年前になりますが、「YouMark」導入の経緯を教えてください。他社のシステムもかなりご検討されましたか？

櫻井様：2011年の春にはデジタル採点の導入をほぼ決めて、業者選定に入っていました。その頃から、各社のお話を聞き始めましたね。おそらく全部の業者にお話を聞いたと思います。

小関様：実は佑人社の「YouMark」が話を聞くのは最後だったんですよね。でも、佑人社の説明が一番聞き応えがあったと覚えています。親身になってこちらの話を聞いてもらえたなという感じがしました。我々は自分たちのスタッフで採点するつもりでしたから、その前提の中でフレキシブルに使えるなという印象でした。他社と違い、我々側での変更点がほぼないところが良かったですね。また、画面を見たらある程度使い方が分かるという、採点者にとっての簡単さもポイントでした。また、長時間の操作を考えると○×の入力しやすさも重視しましたね。

導入当初は苦労したが、 軌道に乗ってからは使いやすかった

——導入当初は色々とお話しした記憶がありますが、どのあたりが苦労されたポイントでしたか？

櫻井様：設定ですね。特に採点結果のcsvファイルのレイアウト（出力列）の設定は、自分がまだ理解が足りていなかった部分もあり、何度もチェックした覚えがあります。ただ、運用が軌道に乗ってからは、どう設定して、どこをチェックすればいいのか分かるようになりましたね。また、スキャンも当初は苦労しました。PCのスペックの問題もあったと思うのですが、導入初期はどうするのが一番良いかなかなか分からないところもありました。ただこれも、運用方法が固まってからは順調に進められていますね。

得点集計ミス、採点ミスが なくなったのが一番のメリット

——「YouMark」での運用が軌道にのってから、一番大きなメリットを感じたのはどのあたりでしたか？

櫻井様：ミスが減ったのが一番です。特に得点の計算ミス、

集計ミスが劇的に減ったのが実感として大きいです。模擬試験の主催会社としては、採点ミスはそもそもあってはならないことでしたが、どうしても完全にはなくせなかったんですよね。必ず採点のチェックを行っていたのですが、2人目のチェック担当者の力量に頼るところが大きく、ミスをなくしきれなかったんです。これが「YouMark」で2人別々に採点するかたちになり、不一致になったものは社員が一致確認するようにしました。これが大きかったです。採点ミスがほとんどなくなりました。また、採点者一人ひとりの力量、スピード、癖などもよく分かるようになりました。難しい採点基準の内容もしっかり理解しているスタッフは実はミスが多かったなんてことも分かりましたし、スタッフへの指導にも活かしていますね。

システムが定期的に アップデートされるのは嬉しい 今後もどんどん進化して欲しい

——今後「YouMark」に必要な機能、欲しい機能などございますか？

小関様：自分が使っているところでは機能的には満足していますね。これといって不満はありません。しいて言うなら、検索時の並びなど、自分で設定した以前の状況を覚えておいて欲しいなと思うことはありますね。

櫻井様：採点側の方でいくつか細かいところで出来たら良いなと思っていることはあります。例えば、1枚採点モードを作ってもらえないかという声はよく出ます。現状は多くの答案を採点することが前提の、同じ問題を続けて採点する串刺し採点モードですが、追加の答案を1枚だけ採点するという状況の時に少しやりにくさを感じます。また、採点条件にもっと細かい設定が出来たら良いなと思うところがあります。例えば、特定の条件を除外するような検索機能です。Aさん以外が採点した答案を検索したり、A会場以外の答案を検索したりして採点ができたらいいなと思うことがありますね。ただ、定期的に機能をアップデートして頂いているので、非常に助かっています。今後も将来的なアップデートを期待して要望をお伝えしていきたいですね。

お問い合わせはこちらから。どんな事でもお気軽にご相談ください。

お電話

03-5834-8801

お電話受付時間
10時～17時(月～金)
[年末年始を除く]

FAX

03-5834-8802

Web

www.yu-jin.co.jp

「YouMark」無料トライアル実施中!

これまでに実施されたテストを使って「YouMark」の使い易さ、スピード、採点精度を無料で体験いただけます。詳しくはお問い合わせください。



導入における動作環境

- インターネットに接続可能なPC(クローズドな環境にも対応可能)
- Google Chrome 最新版推奨
- スキャナ(複合機でも可能/スキャンは外注でも運用可能)
- カラープリンタ(採点結果出力用/プリントは外注でも運用可能)

システム使用料金

初期費用

0円

必要経費はこれだけ!

答案
1枚毎 10円 税抜

解約金

0円

※年間1万枚以上からのご契約となります。

私立中学・高校向け 入学試験対応パッケージ料金

基本料金 40万円 基本料金には下記サービスが含まれます(計4回の訪問サポート)

- | | |
|---------------------|----|
| ●運用形態ご相談打ち合わせ | 1回 |
| ●管理者向けレクチャー | 1回 |
| ●運用トライアル実施・採点者レクチャー | 1回 |
| ●採点当日フォロー | 1回 |

※基本料金以外に、YouMark使用料金として、答案枚数×10円がかかります。

- ▶上記以外に訪問が必要な場合(入試の日程が複数に渡る場合など)は別途追加訪問サポート料金として、1人日4.8万円(1時間あたり6000円)をご請求いたします。
- ▶運用トライアルに必要な各種設定も弊社にて執り行います。
- ▶一都三県以外の地域のお客様に関しては、基本料金内のサービスも含め、弊社スタッフの貴校訪問に必要な交通費・宿泊費は実費をご請求いたします。
- ▶上記すべての料金は、ご発注以降に限り発生いたします。ご発注前のご説明、ご案内、デモンストレーション、採点のトライアルに関しては、一切料金が発生いたしません。
- ▶上記料金はすべて税抜き金額です。別途消費税をご請求いたします。

デジタル採点システム 採用事例紹介

採点を快適に。

教務を健全に。





学校法人 修道学園 修道中学校 修道高等学校

修道中学校 修道高等学校

広島県広島市にある私立の中高一貫男子校。

江戸時代の藩校を起源とし、国内屈指の歴史を持つ。「道を修めた有為な人材を育成する」という建学の精神に基づき、「知徳併進」の教育方針のもと、「尊親敬師」「至誠勤勉」「質実剛健」を掲げ、6年間の一貫教育で「自治向上の精神」を培う。「責任ある自由」を謳い、学年が上がるごとに生徒の裁量が増す自由な校風が特徴の進学校。さまざまな分野で活躍する著名人を多数輩出している。



2020年春から入学試験の採点でデジタル採点システム「YouMark」をご導入いただき、2021年から定期テストの採点で「YouMark Personal」をご導入いただきました。システムの導入にご尽力いただいた教頭の藏下先生に、導入までの経緯と、導入後の校内の変化についてお話を伺いました。

入試の採点は深夜までかかる過酷な業務だった

——藏下先生と初めてお会いしたのは2018年5月の展示会(EDIX2018)だったと記憶しています。その前に、清風南海高校さん(YouMark入試導入校)の視察に行かれたとお聞きしました。

藏下先生 そうですね。当時はまだ1to1(生徒に一人一台PCを持たせる体制)が仕上がってなくて、その1to1ができていない学校への視察をお願いしてお話を伺っていました。「その1to1いかがですか?」とか「この会社のコミュニケーションシステムいかがですか?」とか、そういったことをヒアリングするためにお邪魔したんですが、「そんなことよりデジタル採点ですよ!」と言われて「何ですか?それは」というところから始まりました。清風南海高校さんには、デジタル採点を猛プッシュされました。

——その後、8月にご訪問し、入試のデジタル採点について改めてご説明いたしました。その時点で、すでにデジタルで入試の採点をしようと決めておられたのでしょうか?

藏下先生 当時の本校の状況を思い返しますと、入試が終わって答案を回収したらすぐに採点を始めて、この大問には○が何個で何点で、それをすべて足して何点とか、電卓を叩いてそれをすべて書いて、読み上げる人、システムに入力する人、という作業をやっていました。そんなことをやっている、その日のうちに帰れないという状況になるわけです。合否判定の会議は翌日なのですが、朝までに準備しておく必要がありますので、私が合否判定の原案を考えたり、翌日のプレスリリースの文章を考えたりして、帰宅は確実に深夜になっていました。仕事だ

から一生懸命やりますが、できればそういうことはしたくない。当時はまだ働き方改革はあまり厳しく言われてない時期でしたが、年に1回とはいえ、自分の中ではかなりきつい仕事だなと感じておりました。それが改善できればと思い、YouMarkにすぐ食いつかせていただきました。

入試の採点は先生方にとっても負担が大きい作業で、大事な仕事だとわかってはいるものの、採点となるとどんよりしているところはあったと思います。

——12月にもご訪問して、今度は職員会議でYouMarkのデモンストレーションを行い、質疑応答の場を持ちました。当時、先生方からはどんなご意見が出ましたか?

藏下先生 そうですね。私だけの判断では進みませんので、まずは校長の理解を得ること、それから教職員の理解を得ること、そういったところに気をつけながら進めました。当時は、「採点にかかる時間が短くなったり、採点ミスがなくなったりするのであれば、やった方がいいよね」という意見と、まだクラウドを信用する人が少なかった時代ですので、「クラウドに上げて大丈夫なの?」と心配する意見がありました。当時どう答えたかははっきりと覚えてはいませんが、「じゃああなたはインターネットで買い物はしないんですか?」「キャッシュレスで支払いをしても、ウェブを通っていますよね?」といったお話をして、説得した気がします。

——実際に入試でYouMarkをご利用いただいたのは2020年1月です。導入から4年が経ちましたが、最初の年のことは覚えていらっしゃいますか?

藏下先生 質問が多かったですね。YouMarkの操作方法だけでなく、採点の進め方や解答に対する判断など、「これはどうなんだ」「ここまでやったけれどもどうですか」と、質問が多かったのは覚えています。それに答える担当の方は、相当ご苦労なさったんじゃないかと思います。ただ、準備さえしっかりすれば記録的に早く帰れるし、時短につながるんだということは、みなさん1年目からご理解いただけたと思います。手で採点するよりも、YouMarkを使って採点する方が早いということは、結果として明確に見えました。

——YouMarkには、小問ごとの「正答率」を表示する機能があります。これまでの入試でも、正答率は算出されていたか？

藏下先生 一生懸命力技で計算していましたが、かなり時間がかかっていましたので、採点が終わってすぐに正答率がわかるのは非常に助かります。作問委員の先生をはじめ、正答率を意識する先生が増えていると思います。正答率は、次年度の入試問題を制作するときに、出題内容を検討するのにも活用しています。

——デジタル採点での入試がうまくいき、今度は定期テスト用にYouMark Personalをご案内いたしました。ちょうどコロナ禍に突入して、その対応に追われて、どの学校もなかなかYouMark Personalの導入検討に入れない状況でした。導入に向けて、藏下先生が働きかけていらっしゃったことはありますか？

藏下先生 いえ、先生方にご紹介しただけなんです。生徒とコミュニケーションを取るツールはいくつか利用していましたが、それ以外のものに関しては、先生方に紹介して、興味を示した人が自ら周りに広めていってくれました。これは校風なんですよね。「やってみてどうだった？」と聞いた時に、「これは便利だ」という意見が出ました。YouMark Personalの前に、入試の採点でYouMarkにお世話になっていましたので、入試の時のスピード感や便利さ、採点ミスがないことを先生方は実感していましたし、定期テストでもそのメリットを感じることができたのだと思います。作業時間が短縮できて、余った時間でより実りのある、他の教育活動につなげられるというところは、先生方にご理解いただけたかなと思います。働き方改革の波が押し寄せてきて、ホワイトな職場環境を作ろうと動いていた時期だったので、タイミングが良かったですね。全員一律で使用を強制するのではなく、こちらは「便利だよ」と紹介だけして、使いたい人が使ったらいいというスタンスでやっています。紹介しても結局は使われなくなったツールもありますので、それを考えますとYouMark Personalは大成功です。

——採点システムの導入にあたり、他社のシステムは検討されましたか？

藏下先生 そうですね。こういうのありますよ、と紹介していただいていたのですが、ハンズオン(実用体験)まではいきませんでした。あまり相性が良くなくて、思ったように進められなかったんですね。事務の担当者とも相談して、YouMark Personalがいいよね、となりました。

——他の学校さんだと、導入するにあたって先生方のコンセンサスが取れないとか、上が理解してくれないとか、なかなか導入まで辿りつけないケースがあります。導入に至るまでのご苦労はありましたか？

藏下先生 学校によってさまざまな状況がおりだと思いたので、一概には言えないのですが、「良いものは良い」という実感を持っている先生が、丹念にお話を広めていかれると道は広がるんじゃないかなと思います。いくら良いと思っていても同意が得られないとなかなか広がらないし、立ち消えになってしまうこともあります。YouMark Personalに関しては、丹念にお話をして同志を見つけていけば、きっといい方向に行くのではないかなと思いますね。

——使用教科に偏りがなく、定期テストだけでなく普段の小テストでもご利用いただいている先生も多い印象を受けました。普段使いのメリットは、やはり「時短」でしょうか？

藏下先生 効率化ですね。やっぱり「あったら便利だ」と本当に実感されているからだと思います。定期テスト以外に、小テストでも使われているというのは、実は知りませんでした。そこまで活用しているとは思いませんでしたので、嬉しい驚きです。コロナ禍で一斉休校を行った時期以降、クラウドを使うことに対する抵抗感はほとんどなくなっていますし、便利なものはどんどん使ってほしいですね。

採点が終わって即ウェブ返却
生徒のモチベーションが高いうちに返却できる

——先生方が自発的に広めてくださったこともあり、貴校でのYouMark Personalのご利用枚数は年々増えています。YouMark Personalを使う際のメリットとして、特徴的な意見はありましたか？

藏下先生 Classiで返却できることですかね。
(注：YouMark Personalには、Classiをはじめとしたさまざまなシステムと連携し、答案をウェブ返却する機能があります)
先生によっては、採点が終わったらすぐに答案を返却しています。テスト返却の時間は設定されているけれども、その日まで待たずに、すぐに「返却」のボタンを押しています。「あれは合っていたかな？」と結果を気にしている生徒が、テストが終わった何時間か後には○×のついた答案を見ることができて、「合ってた！」「間違えた……」と確認できるわけです。結果がすぐに返ってくることは、生徒のやる気にもつながる大事な部分だと捉えています。ぼうっと1週間くらい過ごした後に答案返却があり、テストのことを忘れ去ってしまっていると、採点後の答案が「単に○×のついた紙」にしかないのではないかという感覚もあります。早く返している先生は、そういったところも気にしてらっしゃるんじゃないかと思います。



——導入を決めた段階でも、ウェブ返却にメリットがあると考えておられたのでしょうか？

藏下先生 私自身がよく理解していなかったところもあり、後々これはとても便利な機能だと理解しました。一生懸命頑張ったテストの答案に対して、レスポンスが早いというのは大事なことだと思います。また、テスト返却の時に「パソコンを持ってきてね」と指示している先生もいます。そうするとパソコンの画面上で自分の答案を見られて、先生の解説も聞ける。DX化が進んできたなと感じます。

これはちょっとネガティブな話になるかもしれませんが、まれに答案の改ざんという問題が起こります。紙の答案を返している時には、何年かに一回は「なんだか変だな」と感じることもありました。対策として、答案を全部スキャンしたり、コピーを取ったりしていた先生もいて……「そんな紙の無駄遣いをしてたんですか？」と驚きますよね。それがデジタルで採点、ウェブ返却となれば、改ざんは物理的に不可能になる。つまりその心配は要らなくなるし、生徒を疑わなくて済むようになる。そういった部分も大事だと考えています。

事前に想定していなかったメリットですが、こういう仕組みなら改ざんの心配は要らないと後から気付きました。

先生自身が伝道師となって、システムを広めていく

——YouMark Personalを使ってらっしゃる先生方から、ネガティブな意見を聞くことはありますか？

藏下先生 YouMark Personalを使っていない先生の中には、事前設定作業が負担になるのではないかと心配している方がいます。使っている方は、「こんなに簡単なのに」「チョチョイのチョイなのに」って言っているんですが、設定がかなり大変そうだと感じてしまい、敬遠してしまう方もいらっしゃいます。でも、私自身の担当科目が美術で非テスト教科なので、私から「使いなさい」

と強くは言えないんですよ。

今、本校では、キャッチアップ研修を月に1回くらい開催しているんです。機器やアプリをしっかり使い込んでいる先生から、あまり使っていない先生に対してレクチャーをして、「みんな使っていきましょう」というもので、コロナ禍以降継続して実施しています。次年度のキャッチアップ研修では、「今一度YouMark Personalをハンズオンでやりたい！」と一部の先生からご提案がありました。定期テストの設定から採点、返却まで一連

の流れをやりたいんだそうです。講師役の先生の過去のテストをひとつ選んで、事前にみなさんに共有した上で、「こうやったら解答を表示する枠が設定できるんだよ」とか「模範解答はこうやって設定するんだよ」とか、実際にやっているところを見てもらいながら、みなさんと一緒に設定していくという研修を4月以降にやろうかなと考えています。私よりも熱心な方が色々提案してくれています。

——実際にシステムを使っている先生方からそのようなお声が上がってくるのは、YouMark Personalの利便性を実感して、「広めたい」と思っているからこそですね。

藏下先生 全体でやれば大きなメリットが生まれるという意識がおりななだと思いますよ。「これだけ便利なのに、なんでみなさん使わないんだろう？」と思っているのでしょうね。私自身が「良いものは良い、広めようよ」という動きをするのですが、一人でそう言ってもなかなか広がらないんですよ。協力者が現れることでさらに拡散していきますので、そういう方が現れ始めたということは、このYouMark Personalはさらに広がるポテンシャルがあるんだと思います。

システムに合わせて
出題傾向や問題の形を変える必要がない

——YouMark Personalでは、客観式問題だけでなく、文章で書かせる問題や英作文、数学の解法など、採点が複雑な問題も採点していただいていますね。

藏下先生 定期テストの問題に関しては、理解していてほしい内容を問わないといけません。YouMark Personalで採点するからといって、出題の傾向や問題の形を変える先生はいないと信じています。

——我々も、システムにテストを合わせるのではなく、普段のテストをそのまま使っていただくことを重視して、開発を行っています。

藏下先生 定期テストで使っているところを見ますと、どのような問題であっても採点に支障はきたしていないであろうと思います。むしろ、画面を拡大して細かいところまで見る、というようにYouMark Personalの機能を活用して、より明瞭な採点をしているのではないかと思います。

——YouMark Personalを使う上で、工夫しておられることがあれば教えてください。

藏下先生 採点結果の出力に関することでひとつあります。校務システム側を調整して、採点した出力結果（採点結果CSV）を、ボタンひとつで取り込めるようにしてあるんです。「YouMarkから結果を取り込む」というボタンがあって、採点が終わったら、そのボタンを押して、「ハイ、おしまい！」っていう。

一方で、紙で採点している先生方は、採点が終わったらそのシステムに入力しないといけなわけです。ポチポチと「75点」とか打ち込んでいる方もまだまだいらっしゃいます。採点後のことを考えても、YouMark Personalを使った方が便利ですよ。



——機能面について何かご要望はありますか？

藏下先生 それがですね、あまり上がってこないんですよ。今日、佑人社さんがおいでになって、お話をすることになると伝えてはいたんですけれども、「ちょっとこれ言っておいて！」というのはなかったです。

——ありがたいことですが、言わないだけで何かしらあると思っているんです。「こういう機能があったらいいのに」「この画面はこうなっている方が使いやすい」とか。何かあれば、ぜひご意見をいただければと思います。

また、佑人社のサポート体制について、何かご意見はありますか？

藏下先生 佑人社さんは本当に親身になってサポートしてくださっていて、非常に嬉しく思っております。莫大な費用をかけて導入した割にうまく活用できなかったり、うまく回らなかったり、本校の内情が悪かったのかそのシステムとの折り合いが悪かったのかはわかりませんが、結果的に長続きしなかったという経験が過去にはありましたからね。YouMarkもYouMark Personalも、導入して本当に良かったと思います。

——ありがとうございます。お役に立てて本当に嬉しく思っております。最後に、これから導入される学校さんに対して、アドバイスをお願いできますでしょうか。

藏下先生 便利ですよ～。色々な工数が減ってきますし、採点ミスも少なくなりますし。まずは導入されたらどうですか？というのが正直な気持ちです。入試に関しては一斉導入ということになると思うんですが、まずはYouMark Personalを一人でもいいから使い始めて、それが学校全体に広がっていくという方が、もしかしたらうまくいくのかもしれないですね。



◆活用事例

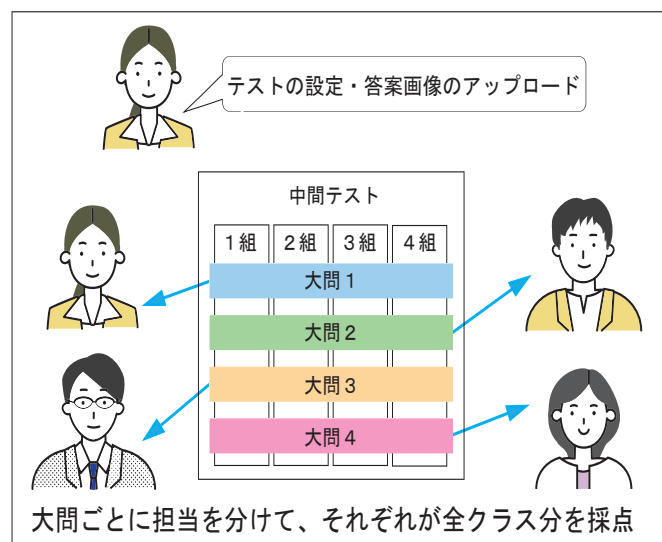
後日、YouMark Personalの使い方についてご報告をいただきました。システム活用の一例として、先生方のお声とともに紹介させていただきます。

<これまで>

- ・複数の教員が同一学年のクラスを分担して担当している
- ・担当しているクラス単位で、個々に採点を行っていた

<新しいやり方>

- ・設定と答案画像のアップロードは、代表して1名が行う
- ・採点は4名で分担して行う
- ・テストを共有し、大問ごとに採点担当を振り分ける
(1つのテストを「採点依頼」で共有する採点方法)



<メリット>

- ・それぞれのタスクがシンプルになり、採点スピードがUP
- ・1名がクラスを横断して採点を行うので、判断にブレがない
(採点基準を他の教員と擦り合わせる必要がない。ただし、テスト返却は各担当なので、教員間の感覚のシェアが必要)
- ・採点状況が見えるので、他教員の頑張りが進捗に触発される
- ・体調不良など、急遽対応が必要になった時もフォローし合える

<懸念事項>

- ・生徒1名分の答案の全体像や学力像が見えづらい
(これはYouMark Personalに限ったことではなく、設問単位で採点をするデジタル採点の特性)

<佑人社から>

YouMark Personalでは、生徒単位やクラス単位で、採点後の答案画像(PDF)をダウンロードすることができます。担当する生徒やクラスの答案画像をダウンロードし、それを閲覧することで、学力像の把握に役立てていただければと思います。



渋谷教育学園

渋谷中学高等学校

渋谷教育学園渋谷中学高等学校

東京都渋谷区にある私立の中高一貫校



21世紀の国際社会で活躍できる人間を育成するため、「自らの手で調べ、自らの頭で考える『自調自考』の力を伸ばす」、「国際人としての資質を養う」、「高い倫理感を育てる」という3つの教育目標を掲げている。

渋谷教育学園渋谷中学高等学校様の 「YouMark Personal」, 「YouMark」 ご導入までの流れ	
2020年5月	教育総合展（EDIX2020）で高際校長にお目にかかる
2021年4月	ご訪問のうえ、入試と定期試験の課題を確認
2021年7月	YouMark Personal の従量課金プラン ご利用開始
2022年2月	中学入試での YouMark ご利用開始 (社会・理科)
2023年2月	中学入試での YouMark ご利用開始 (算数を追加)
2024年2月	中学入試での YouMark ご利用開始 (国語を追加)



学校法人 渋谷教育学園

幕張中学校・高等学校

渋谷教育学園幕張中学校・高等学校

千葉県千葉市にある私立の併設混合型中高一貫校



渋谷教育学園幕張中学校・高等学校様の 「YouMark Personal」 ご導入までの流れ	
2022年6月	高際校長のご紹介により、田村校長に YouMark Personal をご案内
2022年9月	YouMark Personal の無料プランにて 検証利用開始
2022年10月	YouMark Personal の従量課金プラン ご利用開始

渋谷教育学園渋谷中学高等学校（以下、渋谷中高）での定期試験への「YouMark Personal」ご導入と入試への「YouMark」のご導入、渋谷教育学園幕張中学校・高等学校（以下、幕張中高）での定期試験への「YouMark Personal」ご導入について、渋谷中高の高際校長先生、幕張中高の田村校長先生のお二人にご同席いただき、各校の状況を伺いました。

先生方が入試の監督、採点、資料作成を 2日間連続して行うので大変だった

——渋谷中高でのデジタル採点の導入のきっかけをお話いただけますか？

高際校長 渋谷中学の入試は全部で4回あります。特に、一般入試は2月1日、2日、5日があるのですが、このうち1日と2日はいずれも試験を実施してすぐに採点し、翌日発表という非常にタイトなスケジュールで動いていました。

本学の場合は4教科入試で、教科ごとの合格最低点を設けていないので、全ての教科の採点が終わらないと合否判定ができないといった状況でした。また、その日のうちに合否の判定会議を行わなくては行けない。先生方が試験監督、採点、資料作成を2日間連続して行うので、業務軽減を図らないと大変だという声はもともと校内にありました。

もちろん、入学試験ですから避けられない業務ではあるのですが、何か改善できるところはないかといったときに、小計や合計の計算をすること、採点結果をデータにするとすくく時間を取られていることが分かったので、まずはその時間を短縮したいと考えました。

採点業務や事務に関するDX化が必要

——幕張中高でのデジタル採点の導入のきっかけはいかがでしたか？

田村校長 当時は採点業務や事務作業など、色々な管理業務のDX化について、多くの先生方からご提案をいただいていたという状況にありました。その中で、YouMarkは渋谷中高が先行して導入していた採点システムでしたので、事例を詳しく聞きながら、本校の先生方にご案内できたということが非常に良かったと思っています。

究極的には、あらゆる業務のDX化を進めていきたいというところが背景にあるので、チャンスがあればやる、やる以上は浸透させていくということで取り組んできました。全体の業務のDX化を進めていくことで、最終的にはペーパーレスとか、そういう方向に持っていけると良いと思っています。



——YouMark (YouMark Personal) の導入を進められる中で、校内で出たネガティブな意見はどのように解決されていきましたか？

高際校長 ネガティブというよりも、心配する声はありました。「今まで通りの採点ができるのか」「画面上での採点でミスが出ないか」といったものもあったのですが、定期試験でYouMark Personalを使い始めたとき、採点後すぐに小問ごとの正答率が見られたり、×になった問題だけを抽出して、後からでもきちんと確認できることがわかったりと、だんだんプラスの部分が見えてきて、ネガティブな意見が少なくなったように思います。

田村校長 教務的には、セキュリティ面に対して神経質になっていたところがありました。今でもそうですが、DX化を推進する上で、利便性とセキュリティというのはどうしても相反関係にあると解釈しています。利便性を優先するほど、セキュリティは緩和していかなければいけないという状況ですので、そのバランスをどう取るかで、取り扱う情報の内容に応じたセキュリティ設定というものが become 必要になると考えています。

試験問題に関しては、本校が進学校で生徒の関心が高いものから、それなりのセキュリティを担保して行う必要があると考えていた先生方が多かったように思います。セキュリティ関連の内容は佑人社さんにご相談させていただいて、先生方にも安心していただけたので、順調に浸透しているものと考えています。

そうは言うものの、採点のしやすさだけを優先せず、従来と同じように記述問題も出題し、先生方が主となり、記述を含めた入試問題の採点を丁寧に行いたい、という要望もありました。

2つの問題意識でさまざまな検討をした上で、YouMarkの仕組みなら今の採点方法を変えずに済むのではないかという結論に至って、導入を検討したという経緯になります。

入学試験から導入すると、入試当日がいきなり本番になってしまうので、先に定期試験で先生方に広く慣れていただくということで、まずは定期試験からスタートを切ることになりました。

——定期試験でYouMark Personalを導入したときの先生方の反応はいかがでしたか？

高際校長 YouMark Personalの説明を受けたときに「小計と合計の計算をしなくて済む」と聞いて、先生方から「この新しい技術は面白そうだから使ってみよう」という声が上がりました。実際に使ってみると、試験前の設定が結構大変だという声はあったのですが、採点が終わると自動的に点数が出ることにみなさん感動していました。

——入試でのYouMarkの運用は、理科と社会の2教科からでした。どのような経緯で他教科でも運用されるようになったのでしょうか？

高際校長 最初に理科と社会で始まったのは、出題の形式や解答用紙の形式を大きく変えずにYouMarkを導入できるというところがあったからだと思います。

次に、数学科では、理科と社会の実際の運用を参考に検討した上で、「これは算数(数学)でも十分に使えるのではないか」となりました。そして、国語については一部導入という形にいたしました。やはり教科特性があるので、いきなり記述を含めてすべてをデジタル採点に変えるということはずいぶん、「一部のみ、やれるところからやってみよう」としました。実際には、点数の計算がスムーズに行えるようになった分、国語の先生が記述問題の採点により注力できるようになった点は良かったと思います。

——入試でのYouMark導入にあたって、受験生情報が記載されたQRコードシール(受験生と答案データを結びつけるためのシール)を貼る作業が発生しましたが、懸念事項はありましたか？

高際校長 学内で心配というよりも、受験生が混乱するのではないかと非常に気がかりでした。ですが、昨今の小学6年生の子どもたちは、試験でシールを貼るという作業に私たちが思っている以上に慣れていて、驚くくらいスムーズでしたので、その心配はいらなかったと思います。

—— YouMark (YouMark Personal) を実際に導入していただいたとき、校内ではどのような意見がございましたか？

高際校長 定期試験で YouMark Personal を使用して採点をしましたときは、確認(採点の見直し)が非常にやりやすくなったと聞いています。

一度○×△をつけた後で、もう一度ははじめから全部見直すのではなく、○×△の採点結果をそれぞれで絞り込んで、画面に表示できるというのは、ひとりで定期試験の採点をするときには、とても使いやすい機能だと思います。×をつけた解答だけを抽出して間違っているかどうかを確認することができますし、○だけを抽出して、本当に○をつけるべき解答に○をつけているか、△の解答だけを抽出して、与えた部分点にブレがないかといったことを確認できますので。採点の進捗状況が可視化されていることと、採点後の分析がとても効果的にできたということも良かったと思います。

実際に入試で YouMark を使ってみると、採点業務そのものにかかる時間はそこまで削減されないのですが、当日やらねばならない作業を前後の日程に分散することができたというのが非常に大きかったと思います。

機能感に関しては、採点時の最適な画面サイズはいくつだろうというのは、常に話題にあがります。デジタル採点で使っているのが、どちらかというと小ぶりなモニターでして、「採点するには少し小さいんじゃないか」という声はいただくようになりました。その他には「事前設定がもう少し簡単にできるといい」という声は確かにあります。

田村校長 良い面は、試験問題の作成に際しての制約がほとんどないということです。今まで通りのものをそのまま導入することが可能なシステムなので、その点での不安感ややりにくさということはあまり感じていないのではないかと思います。



ただ、事前の設定について、パソコンの使い方がたどたどしい方々にとっては課題が非常に多いので、人によって敷居の高さは違うと感じています。若い先生ほどそこは柔軟で、早く導入している方が多く、年配の先生ほど少し時間がかかり、場合によっては「今まで通りの手採点でいいや」と諦めてしまう先生もいなくはないです。とはいえ、半分以上の先生方に YouMark Personal を活用していただいていますし、利用者の比率はじわじわ上がってきているという状態にあります。これから先にさらに DX 化を進めていくために、2025 年度は入試でもデジタル採点にトライしてみようかと考えております。入試で YouMark を導入することで、全先生方が関わることになりますし、これで YouMark Personal の利用率も上げていけるのではないのでしょうか。

—— 定期試験での YouMark Personal で使用にあたり、運用面で何か変化はありましたでしょうか？

高際校長 テストに関しては、デジタル採点だから問題や解答用紙を変えるということを極力したくないので、元から親和性が高い教科や学年で YouMark Personal での採点を行っています。これまでの採点とあまり大きな変化をしなくて済んだということが、YouMark Personal の導入の決め手でした。

記述の問題というのは子どもたちが何を言わんとしているのか、正しい言葉で書いているのかといったことをしっかり見る必要があります。YouMark Personal なら「ここまで何点加点」「ここで減点」というように、赤ペンツールで部分点を書き込むことができるので、デジタルで採点することに抵抗がないようです。

画面上で文字を大きくしたり、あるいは全体と比較したりといったこともできますし、これまで教科が大事にしていた記述のポイントを大きく動かすことなく、採点業務をデジタル化できたといったことが大きかったと思います。

一方、見開きで 2 題しか解答欄がない解答用紙のように、答え方が多岐にわたって、かつものすごく長く答えるものは、デジタルにする意味が薄れていくので、デジタル採点にしていけない印象があります。採点に使用しているモニターの大きさよりも紙の答案の方が大きく見られますしね。

自分が作った試験問題に対して、デジタル採点との親和性が高いものはデジタルになりますし、あまりデジタルの良さが活かないものについては、無理してデジタル化していないという印象があります。

田村校長 ほぼ同様ですね。「採点システムの制約で試験に何らかの影響を与えるようなことはしたくない」というベースの考え方があって、作成した試験に対して、YouMark Personal が使えるという関係性を重視していました。

ただ、使っている先生方はもう採点システムの仕様が分かっていますから、それに合わせて問題を作ることはしています。自分の操作しやすい順番で並べるとか、自分が取り扱いやすい構成で問題を配置するとか、そのようなことを考えて作られているようです。「試験が優先で、その上でシステムがある」ということを大前提に考えている感じです。

クラウドでやるのが前提 セキュリティをどう担保するのがポイント

—— YouMark (YouMark Personal) のようなクラウド型のシステム導入に対する当時の印象や、導入に向けた解決方法はどのようなものでしたか？

高際校長 クラウドにあげることについて、セキュリティの課題は校内でも随分出てきました。ただ、今の社会環境や企業環境の中では、むしろクラウドにあげることがビジネスの主流になっていますよね。それほど先進的な取り組みというわけでもないし、セキュリティが担保できるのであれば、必ずしもクラウドが不安なものではないということは、皆さんの中で理解が進んだのだと思っています。もちろん、佑人社さんのご説明も安心感を与えてくれましたし、社会的なニーズや社会の現状といったものにも大きく影響を受けているようにも思いました。

田村校長 本校では、DX化に関してはかなり早い段階から進めてきていて、ここ10年、20年ぐらい前から自社サーバーを使用していました。これが本当に大変で、結構な容量のサーバーを増設しながらやってきました。この自社サーバーの大変さというのも身に染みているので、クラウド前提でのセキュリティの導入を考えていました。ですから、セキュリティを担保しなければいけないところは、我々のスタンスとしては変わっていないです。究極的にセキュリティを担保できるのは自社サーバーですが、それをやるのは維持費を含めてものすごく大変なことです。現実的には維持費で年間何千万円単位になってしまうわけです。それがクラウドにすることで非常に安価で設定できるわけですから、費用対効果では比べものにならない。クラウドでやるのが前提になるから、その上でどうするかということの議論で、最初の段階ではそこにあまりハードルはなかったですね。けれども、そのクラウドでセキュリティを担保するというのがなかなか難しいですね。これはもう、専門家でないといけない部分だから、そこが一番難儀するところでした。我々が「こういうことが大丈夫ですね？」と不安に思うところに対して、専門家の方が「大丈夫です」と返してくれればひとまず安心、というところを進めているのが正直なところですね。それぞれの会社がセキュリティポリシーに関して方針を持ってやっていますので、その回答を信頼して進めるという考え方ですね。

答案返却後の生徒からの質問は 内容に関わる本質的なものに変化した

—— YouMark (YouMark Personal) を導入したことで、生徒の皆様から何かお声があがりましたでしょうか？

田村校長 子どもたちからはほとんど聞かないです。デジタルネイティブ世代なので、違和感を覚えることはもうないのかな、と見えています。むしろ、デジタルでないとちょっと古いというイメージを持つのかもしないですね。意味があってやっているということも分かっているでしょうから、不満が出てくるということはあまりないです。生徒が気にしているのは、むしろ「正解なのに×がついている」とか「○なのに点数が加算されていない」とか、そういうことですね。

高際校長 生徒は、採点や点数に間違いがないのが当たり前だと思っているので、間違いがなくなったことはポジティブにはとらえてくれないですね。我々もその当たり前に近づけるために、デジタル採点を導入したというところがあります。答案返却後の生徒からの問い合わせが、○か×かとか、「この加点が間違っている」とか、採点ミスに関するものではなくて、△あるいは×がついたものについて、「どうしてこれはいけないのか」「何でこれしか加点がないのか」といった、本質的な内容に寄ってきたというところは、良いことかもしれません。

——最後に、まだデジタル採点システムをご導入いただいていない学校様に向けて、デジタル採点の良いポイントをお教えいただけますでしょうか。

高際校長 テストの実施は子どもたちがきちんと学習したことが身についたかどうかを確かめるためのものなので、試験前に何を勉強し、テスト当日にどう答えを出し、その結果を彼らにどうフィードバックする



かということが非常に重要になります。学習者である生徒にテストを受けている意味がしっかり伝わるようにしないと、ただ単に点数をつけるだけのものになってしまうというのが、テストの持っている怖いところですね。先生方の仕事の中で、例えば点数の計算であるとか、採点が終わった後に子どもたちの解答をゼロから分析するといった時間は、デジタル採点システムの力を借りることで大きく軽減されます。先ほど答案返却のことも申し上げましたが、空いた時間は、結果から読み取れることを学習者にフィードバックする時間に使うことができますし、採点業務を見直す上で、デジタル化を進めることはプラスの要素があると思っています。

田村校長 基本的にはプラスの要素しかないと思っています。業務のDX化というのは、導入当初には、目に見えて経営合理化が図れるか、必ずしも上手くいくかはわからないものですが、最終的にはそれが必然だと考えて間違いのないのではないかと。ですから、色々な業務の合理化・効率化を進めていくのであれば、絶対にデジタル化は避けられない。

色々な業務をデジタル化していくときに、高際校長が言うように、試験の本質、生徒の学びを「採点」という形で成績評価していく流れの中で、今までのような手作業で進めていくよりは、DXの力を借りることで少しでも負担を軽減できるのであれば、私はトライすべきだと思います。トライしてみることで、少しずつデジタル化に対するスキルが上がっていけば、負担の軽減も実現が可能になるのではないのでしょうか。

やらなければ永遠にやらないで進んでいくだけで、結局大事な部分を削らなければいけないということにもなりかねませんから、DX化を進めていくなら、デジタル採点は積極的に活用していくべきものだと思います。

(2024/3/5 取材)



青山学院中部

青山学院中部

東京都渋谷区渋谷にある私立の中高一貫校。

「愛と奉仕の精神を養い、社会に貢献する人物を育成する」という教育方針を掲げ、「地の塩、世の光」をスクール・モットーに、キリスト教信仰にもとづく人格教育を重視している。

きめ細かい指導を行うために、全学年1クラス32名8クラス制を導入しており、ゆとりを持ちながら基礎学力の充実を図っている。個性を尊重した自由な校風から、幅広い分野で活躍する卒業生を輩出している。



2020年より、定期テストなど学校内での普段のテストの採点に、デジタル採点システム「YouMark Personal」を導入していただきました。

システムの導入を推進していただいた浦田浩教頭先生（理科）と、導入時から現在に至るまで学校内でのシステム利用をまとめている教務委員会の達富悠介先生（国語科）に、導入の経緯や効果、今後の課題についてお話を伺いました。

2015年頃から導入は検討していたが、
当時は時期尚早で理解が得られなかった

——我々が学校にはじめてご訪問したのが2019年の9月でした。デジタル採点の説明に来て欲しいとご要望をいただき、何名かの先生に向けてデモンストレーションをさせていただきました。先生方はそれまで、こういうシステムがあるのはご存じでしたか？

浦田教頭 2015年だったと思いますが、「教育ITソリューションEXPO」の展示会で佑人社さんや他の業者さんのブースで拝見して、採点システムの存在は知っておりました。その時に一度導入しようかと検討したのですが、時期が早すぎて先生方の理解が得られませんでした。そもそも本校はICT関係でちょっと奥手のところがあるんですね。いまだに通知表も手書きです。採点についても、「自分の手で採点することに意味がある」という声もあり、「システムを導入する意味があるのか？」という反応が多かったんですね。そのタイミングでは無理に導入しても意味がないなと思い、こういうものがあることを知ってもらい、じわじわとボトムアップで「導入したい」という声が出ると良いなと思っていました。



浦田教頭

——2019年秋の段階では先生方からそういう声が出始めていたのでしょうか？

浦田教頭 他校で非常勤をやっていた教員から、入試の採点でYouMarkを利用したという情報が教務委員長に入りました。なかなか使い勝手が良かったという話でした。いわゆる口コミです。そこで教務委員会の中で、導入を検討しようではないかという話になりました。それで佑人社さんにお声をかけさせていただきました。

コロナ禍で対応すべきことは多かったが
導入を検討するべきだと考えた

——導入を決定いただいたのは2020年7月でしたが、導入決定にいたるまでに何かで苦労はありましたか？

達富先生 2019年度末に教務委員会ですべて使っていきたいという議題が出ました。ただ、全校の先生にいきなり使ってもらうのではなく、教務委員会の中の数名の教員で試してみようというつもりになりました。ただ、コロナ禍で教務委員会としても色々に対応しなければならぬことも多く、「はたして今本当にこれをやるべきか」「自分たちで取りまとめられるか」という懸念もありましたが、個人的には非常に使いたいと思っていましたし、採点を効率化することで他の業務にまわせる時間も生まれると考えていました。2020年4月の年度明けから教務委員会の先生方で試すこととなりました。ただ、教務委員会の中でも抵抗感がある先生もいましたし、反対の考えをもつ先生方からこんな意見が出るんじゃないかという危惧もあり、最初の一步がなかなか踏み出せなかったのが正直なところでした。色々なことを危惧すればするほど、やらない方がよいのではないかという意見もありました。ただ、最初抵抗があった先生も実際に使ってみて便利さがわかり、理解を示してくれるようになりました。

——一部の先生方からネガティブな意見が出るというのはどの学校でもよく話題になるのですが、それはPCの操作に慣れていないことで拒否反応が出そうだという意見でしょうか？

達富先生 PCの操作に不慣れな先生に抵抗感がありそうということももちろんありましたが、それよりももっと根本的なところでの懸念がありました。採点というのは「生身の教師と生身の生徒とのコミュニケーション」であって、画面上で済ませてしまうことや、印刷物を返すことの味気なさ、温かみのなさといった点で反対意見が出るのではという懸念がありましたし、実際にそういう声も届きました。ただ、使いたい先生だけが使える範囲で使って効率化を図れば良いと考えました。これまでどおりの採点を続けたい先生はもちろんそれで良いというスタンスで、その考え方は今でも変わりません。

セキュリティ面のチェックをしっかりと行い、 クラウド型サービスで良いと判断した

浦田教頭 システムの導入にあたって管理側としては予算面、安全面を担保しなければいけませんので、その部分を考えていました。まずは、YouMark Personalのような利用枚数に応じた価格体系のクラウド型か、アプリケーションの買いきりインストール型のどちらが良いのかを検討致しました。個人的には当初はアプリケーション買いきりが良いのではと思っていましたが、世の中のクラウドへの流れやメンテナンスの必要がない利点もあり、また1枚10円という料金も予算的にそれなりに抑えられるものだと判断し、YouMark Personalの導入を想定した臨時の予算を確保しました。安全面では、答案をクラウドにアップロードするのが大丈夫なのかという不安がありましたので、青山学院大学「情報メディアセンター」にYouMark Personalについて安全面の確認をしました。その際にはシステムについて様々細かいことまで佑人社さんにお伺いしましたが、最終的には「導入しても問題なし」とお墨付きをもらいました。そういった形で、予算的にもセキュリティ的にも導入しても大丈夫だという状況を作りました。その後教務委員会での検討では、YouMark Personalを試しに試ってみて、思った以上に使い勝手が良かったということもあり、導入決定に至りました。

採点時間はこれまでの半分に、 一人ひとりの答案にしっかり向き合えるようになった

—— YouMark Personalの採点画面をはじめて触ったときはどんな印象でしたか？

達富先生 基本的な操作はすぐに理解できました。直感的な操作で採点が出来ると思いましたね。また、手採点の時に何気なく出来ていることが何でも出来るということで、非常に興味が湧きました。設定もすぐに慣れましたね。つまりくところはありませんでした。

浦田教頭 私、実は採点が苦手なんです。得意だったのは最初の1年目だけ。毎回になってくると結構負担なんですよ。理科の教員なので8～9クラスを担当することになるんですね。多くの採点をしなければならない訳です。ありがたいことに採点期間というのは設けられているんですが、期限内に採点をしなければならないのはもちろんのこと、ノートや提出物の確認をしたりと学期末は他にもやるべきことがあるのが実際のところ。「採点終わった！」「次は点数計算！」「次は入力！」「そして評価！」という流れになってしまいます。そうすると、一人ひとりの答案、解答を見て「この子は……」というところまではなかなかたどり着けません。それが、YouMark Personalを使っからは、その時間が半分以下になったと感じています。その分、一人ひとりの答案にしっかりと向き合えるようになりました。どんなこともそうですが、最初は慣れるのが大変です。でも一度慣れてしまったらあとは問題ありません。これなら若い方であれば、すっと入っていけそうだなと感じました。ベテランの先生は最初ちょっと苦労するかもしれないなと思いましたが、達富先生などがフォローしてくれますし、ICT支援員の補助もあります。それで運用はうまくいっていますね。

国語の記述問題の評価基準の 統一にも役に立っている

達富先生 私は国語の教員ですので記述問題が多く、2、3人の教員で1学年を受け持つことが多いです。そのため、長い記述問題を

どう採点するかが大きな課題でした。「どこをどう書いてあれば何点の部分点を与えるのか」ということについて、他の先生方との調整にすごく時間がかかります。YouMark Personalでは、設問ごとに採点が出来ますので、他の先生方と調整する必要がある記述問題はあとにして、それ以外の問題を優先して丸付けすることで、精神的にも楽になりましたね。力を入れて考えなければならない問題とのペース配分が出来るようになりました。

——先生方は自分の受け持ちクラスの答案を採点するという形ですか？

達富先生 そうですね。自分の受け持ちのクラスの答案を採点します。他のクラスを採点する先生方と評価基準が統一できていなければ、当然正しい評価になりません。これまでは、判断に迷う解答には付箋をつけておき、その答案をみんなで持ち寄って相談していました。全員がYouMark Personalを使っている場合ですと、複数の先生方が付箋をつけたものをまとめて見ることもできますので非常に便利です。具体的には付箋を貼ったり、保留を使ったり、青ペンで加減すべきかどうかなどのメモをつけたりしています（※青字ペンツールは生徒には見えない先生用のメモ機能です）。他の先生方に自分がメモした解答について確認いただくことが非常に簡単にできます。このあたりは非常に便利です。



達富先生

一問ごとの正答率がきっちりと出ることを 今後の指導に活かすことが大切

浦田教頭 本来テストは生徒一人ひとりと向き合うチャンスなのですが、手採点で時間的な余裕がないと、採点と評価が作業となってしまう。このようなツールがある時代において、マルバツをつけることが教員の仕事でなくなる可能性もあります。私自身、採点時間に余裕が出たことによって、一人ひとりの答案をじっくり見られるようになりましたし、一問ごとに正答率を見て、将来の指導への反省をしています。本来、成績をつけるためのテストではなく、生徒に学習内容を定着させるためのテストですし、教師にとっては、自分の教え方を振り返るためのテストであると思っています。先生方にはそのように使って欲しいです。働きかた改革という観点もありますが、ただ楽になっておしまいでは意味がありません。採点は早く終わらせて、一人ひとりの生徒の答案と向き合い、個々の生徒にどのように対応したらよいのかを考える時間をしっかりと取ることが大切です。また、きちっとした数字が出ることも大切です。これまでも教員それぞれがある程度は正答率を把握していましたが、数字ではっきり表れることはかなり重要です。クラス間で正答率に大きな開きがあることもあります。立場上多くのクラスを持たないので講師の先生と分けて受け持っていますが、講師の先生の教えているクラスの方が正答率の高い問題もあります。その場合は、どうやって教えているのか聞くこともできますし、指導の仕方が甘かったかなと自分の指導を反省することができます。今後の授業に繋げるのが一番大事だと思います。今回のYouMark Personalの導入は改めてそういうことに気づかされました。

部分点になった解答を一覧で表示させて、 何が悪かったのかを考える授業を行った

達富先生 これも国語の記述問題ですが、部分点をつけた解答だけをYouMark Personalの採点画面に一覧で表示し、当然生徒の名前は伏せた状態ですが、スクリーンショットを取っておき、それを答案返却時に生徒に見せるということを授業でやってみました。「君たちの中にこういう解答があったんだけど部分点しか与えられていない。どうしてそうなったと思う?」と問いかけてみたんですね。「この解答は何が足りないのか?」「模範解答とは違うがこれも正解になり得るか」などを問いかけました。テストが終わったらそれで終わりではなく、取り組んだ問題からさらに深い学びができると考えています。

浦田教頭 それはいいですね。

達富先生 記述の問題は△(部分点)を取るの結構できるんですが、○(満点)を取るのはすごく難しいんですね。△の解答からもう一步考察できれば、もっと深い学びになるのかなと考えています。生徒を採点者の立場に引き込みたいと思っているんですね。○だ、△だと評価されるだけでなく、これならやっぱり○だ、これは△だと考えて欲しいと思っています。生徒自身も「なるほどな!」と納得できますし、「こうしたら良いんだ」と新しい気付きにもつながるし面白いなと思っています。

——採点の基準を生徒に公開しているんですか?

達富先生 そうですね。私は公開するようにしています。この観点で採点を行っている、どこまで書けていたら何点与えるというのが分かるように示しています。この授業、生徒の反応はすごく良いですね。画面上に自分の解答が出て来なくても、「これは自分と似ている」「自分とは違うけどこれも同じ△なんだ」と生徒自身が興味を持ってくれますし、自分たちが間違えたものを何とかしなければという義務感のようなものも出ているような気がします。

小テストを教室でスキャンして すぐに返却するのも復習効果が高かった

達富先生 テストを受けた時は生徒のモチベーションがすごく高いんですね。そのモチベーションを次の授業や復習にどう活かすかがすごく大事だなと思っています。それにはデジタル採点が非常に有効だなと感じています。さっきの例もそうですが、授業中の小テストについても活かしています。「小テスト」実施時に教室に小さめのスキャナを持ち込み、その場でスキャンしてしまいます。答案はその場ですぐに生徒に返却し、その後すぐ解説します。次の授業で返すとなると時間があいてしまい、せっかく高かったモチベーションが冷めてしまう気がするんですね。答案をすぐに返却することで、高いモチベーションを維持したまま復習ができます。実際の答案はスキャンしてあるので、あとでYouMark Personalで採点できる。

当然採点もはやいです。答案をすぐに返して復習に活かすことが出来るのは効果が非常に高いと考えています。

YouMark Personalの利用を 指導に活かすアイデアを今後も考えたい

浦田教頭 本当にその通りです。非常に良い流れですね。さっき達富先生が紹介した部分点になった解答をみんなで見るのは、デジタルを使った「学び合い」で非常に良いと思います。1人で学ぶのとはちがう「学校が学校である」ために大切なところだと思います。

テストの問題を作るときも、手採点であれば、計算しやすいように教師の都合で同じ点数を並べて作成したりしていましたが、デジタル採点であればその必要もありません。本来作りたい「より良いテスト」にできます。また、スピードが大切ですね。試験が終わったばかりが生徒のモチベーションが一番高いです。定期テストではすぐに答案を返すのはなかなか難しいかもしれませんが、終わったらすぐに返すのが、学習の定着には効果的だと思います。今後も色々検討したいと思います。

LMSの連携は非常に大切なポイント

——YouMark Personalへのご要望はありますか?

達富先生 基本的にはとても使いやすいと思っていますが、いくつか申し上げます。まず、クラウド上で答案を返却できる機能が欲しいなと思っていたので、今回のGoogle Classroom連携機能は非常に嬉しいと思っています。現在本校ではGoogle Classroomは使っておらず、大学を含めて学院全体で「CoursePower」という大学向けのLMS(学習管理システム: Learning Management System)を使っております。そこに連携できるのが一番です。ただ、採点や答案返却は学校にとって非常に大切な業務であると認識しており、プラットフォームの選択にも影響を与えていると思っています。YouMark PersonalがGoogle Classroomに連携できるなら、選ぶプラットフォームはGoogle Classroomにしようかと考えてもおかしくないと思っています。色んなサービスとの連携があれば、選択肢の幅が広がって良いですね。

次に、iPad上でペンを使って描画するとき、線があまりキレイではないという不満があります。特に国語の採点では色々と書き込みを加えたいと思っているので、そのあたりの機能が良くなれば、非常に嬉しいなと思っています。

浦田教頭 先ほど話題に上がった「CoursePower」というLMSには授業支援BOXという、紙のデータを変換して答案などを返却する機能があります。昨年の緊急事態宣言下では、生徒に答案を返却できないという場面もあり、手動でこの機能を使った場面もありました。こういった緊急時に備えることも含めて今後相談していきたいです。

また、「ア・イ・ウ」や「A・B・C」といった記号解答の自動採点についても早く導入して欲しいですね。認識精度は100%にならないでしょうが、あとで修正が出来れば良いと思っています。

達富先生 未記入の白紙の解答だけでも寄せておいてもらえると良いですね。非常に助かります。また、採点した後に配点などを直したいということがありますが現状では出来ません。ロック機能が大切なのは理解しておりますが、学校アカウントだけでも解除が出来るようになって欲しいと思っています。

※上記要望事項はいずれも佑人社内ですでに課題に上がっているもので、少しずつ改善していくことをお伝えしました。

(2021/3/16取材)





桃山学院中学校高等学校 St. Andrew's School

桃山学院中学校高等学校

大阪市阿倍野区昭和町にある中高一貫教育の私立中学校・高等学校。
キリスト教の自由と愛の精神をモットーにしており、自由な校風が特長の
進学校である。

1884年の開校から130年以上の歴史があり、2001年には男女共学の国
際コースを開設、2008年には中学校を開設し、2011年には標準コースを
男女共学の文理コースに改め、中高一貫コースとともに新たな一歩を踏み
出している。



2017年春の入学試験の採点からデジタル採点システム「YouMark」を導入いただき、その後も学校内でのテストの採点にご利用いただいておりますが、2019年9月に学校内での利用に特化した「YouMark Personal」がリリースされると、いち早く導入いただきました。

システムの導入を推進いただいた田中智晴先生（理科）と、YouMark Personalを存分に活用いただいている山田秀雄先生（数学科）と小川謙太郎先生（英語科）に、YouMark Personalの活用方法や導入効果、今後の課題についてお話を伺いました。

手採点の頃に比べて採点にかかる時間は 半分以上になった

——今現在、桃山学院様でYouMark Personalをご利用になっている先生方はどれくらいいらっしゃいますか？

田中先生 80%くらいの先生は使っていると思います。実力テストでは全員が使っておりますので、使ったことがあるということであれば100%ですが、定期テストでは80%くらいでしょうか。かなりの先生方が活用しています。



田中先生

——実力テストはすべての先生がYouMark Personalで採点を行っているとのことですが、採点の分担はどのようにしておられますか？

山田先生 数学はクラスごとではなく、設問ごとに分けて作業しています。

小川先生 英語も設問ごとですね。英訳などの問題は採点にブレが出てはいけませんので、小問ごとに専門家を決めていますね。1学年600～700人いますので、それぞれの担当の問題をまとめて1人で採点します。担当する問題は少なくなりますので、採点基準のブレがなくなるというだけでなく効率も良いですね。

山田先生 設問ごとに分担した方が採点ミスや質問の対応もやりやすいです。この問題は誰が採点したというのがはっきりしていますから、担当の先生が細かい内容も含めて生徒にしっかり対応出来ます。定期テストでも同じ方法です。

田中先生 特に学校でそのようにしなさいと決めている訳ではないんですよね。各教科の先生方が相談して、より良い方法を決めています。

——手採点からデジタルに移行して、作業効率の変化はどんなものでしょうか？

田中先生 私の実感としては1/3くらいになったと感じていますね。

山田先生 数学では解答のみを書かせる問題と、解答の途中経過を書かせる問題があります。途中経過を書かせる問題については、当初かなり時間がかかっていましたが、タッチパネル式のPCで書き込みながら採点をするようになって、劇的に早くなりましたね。アンダーラインなどを書き入れる作業がタッチパネルだと非常にやりやすいです。採点時間は手採点のときに比べると半分くらいにはなっていますね。また、点数計算がまったく必要ないですから、トータルでは倍以上の効率アップだと思います。

小川先生 英語は記号問題がたくさんあるのですが、手採点の時から私は1問ずつ採点をしていました。答案を1枚ずつめくりながらの採点も職人技のように早くなっていたのですが、YouMark Personalでの採点は比べものにならないくらい早いです。以前は紙で手を切ってしまうようなこともありましたがそれはありませんし、効果は非常に高いですね。格段に違います。私の実感としても採点時間は半分から1/3くらいになったという印象です。また、それで空いた時間を活用できているのも大きいです。以前から、文法問題であればどの問題ができていて、どの問題ができていないのかをきっちりと把握したいと思っていましたが、瞬時に集計ができます。これは大きいです。また、この情報を生徒にフィードバックできることも大きいです。生徒に配布する模範解答の裏面に全問題の正答率の一覧を載せるようにしました。我々教員が正しく生徒の学習状況を把握することが出来るようになりましたし、生徒もモチベーションアップに繋がっています。

試験後の授業のやり方が変わった

——採点の効率が上がっただけでなく、先生方のその後の指導にも変化が出て来たということですね？

小川先生 そうですね。特に定期テストのあとに行う解説授業は大きく変わりました。これまでは「これくらいの生徒が出来ていた



小川先生

かな」という感覚はありましたが、はっきりと数字には出ていませんでした。試験のあとの解説授業は全問題について幅広く扱っていました。

採点をデジタルにしてからは、はっきりと数字が出ていますので、正答率が90%以上のほとんどの生徒が来ている問題は飛ばしています。正答率が50%に満たないような問題を重点的に解説できるようになりました。

また、「これくらいは出来るかな」と思って出題したチャレンジ問題もはっきりと正答率がわかり、ちょっと難しいかなと思っていても90%以上の正答率だったりすることがわかったりと、新たな発見もありました。

山田先生 数学では以前手作業で正答率を出していましたが、非常に手間がかかります。デジタル採点で簡単に集計出来るようになったのは非常に大きいですね。私ももっと授業に活かしていきたいと思います。

田中先生 私からはこのようにしなさいと特に伝えていないんですよ。各先生、各教科で工夫して効果的な活用方法を見つけている状況で非常に良いですね。

試験期間中の職員室の景色が変わった

——以前田中先生からは、職員室の景色が変わったというお話を伺いましたが、具体的にはどんな感じですか？

田中先生 紙で手採点する先生が少なくなりましたから、試験期間中の職員室の風景はほんとに変わりました。また、これまでは何日かけて採点を行っていたのですが、ほとんどの先生が試験日当日に採点を終えているんじゃないですかね。採点に追われているという状況がなくなったと思います。

小川先生 英語は英作文の問題があり、B4用紙いっぱいには生徒は書いてくるので採点は結構手強いんですが、それを先に片付けて、残りの語句や記号の解答の採点は自宅に持ち帰るというようなケースもあります。答案を持ち帰ることはできませんが、YouMark Personalなら自宅でも作業ができるということで気持ちに余裕が出ましたね。働き方の部分でも変化が出ました。また、これは二次的なことなんですが、答案返却後に生徒が解答を改ざんできないということも良いと思っています。改ざんすることが出来る余地があれば、子どもですからそういう悪い心が出てくる生徒もいますが、デジタルになれば改ざんできる余地もありません。教育的にも良いと思っています。

——デジタル採点の答案が返却されることで、生徒さんが違和感を持つことはなかったですか？

田中先生 特にそういうことは聞いていませんね。生徒からも保護者からもそういう声は出ていません。生徒が書いた現物の答案は返す先生とそうではない先生がいるのですが、手元に現物が返ってこなくても文句は一切出ませんね。○×や得点のついた採点結果が手元に届けばそれで大丈夫です。生徒にとっても、保護者にとっても、採点がデジタルになったことは「進んでいるな」と感じる程度で、それほど不思議ではないようです。

Google Classroom連携は非常に効果的

——この春から正式リリースする「Google Classroom連携機能」を1月のテストと3月のテストで試して頂きましたが、いかがでしたか？

田中先生 学校全体ということではなく、ひとまず何人かの先生で試してみようということだったんですが、ここにいる3人は全員が試しました。

山田先生 まったく問題なかったですね。非常に良かったです。生徒からも答案を返して欲しいという声は出ませんでした。

田中先生 新年度からはこのGoogle Classroom連携をメインにする人が多くなると思います。これまでは、採点結果の答案を印刷するのにも時間がかかりますし、授業で答案を返すのにも時間がかかりました。この時間がなくなることは大きいですね。試験後の最初の授業までに答案が返却できますので、授業が変わる教員も多いと思います。「最初の授業までに復習しておきなさい」とすることで、いきなり解説から始まる場合もあるのではと思っています。

小川先生 英語では、試験後の最初の授業で答案を返す前に、正答率が低かった問題を生徒同士で相談して解き直しさせたりします。これは答案を先に返してしまうとそれを確認したいという気持ちが出て、なかなか授業に集中できない生徒がいるからです。今後は授業前に返却しておくことで、その対応も変わってきそうです。

山田先生 試験後の1時間分の授業を無駄にしているケースもあります。答案を返却するのにも時間がかかりますし、返せば生徒は結果をまずは確認しますよね。その段階で採点結果に修正のある生徒はそれを持ってくることもあります。そうすると中途半端な時間しか残らず、解説を少し行っただけで授業が終わってしまいます。本来次の授業に進みたかったところが進めないということがよくありますね。先に答案を返してしまえば、次の授業にすぐ進む先生もいると思います。新年度は色々変わってくると思います。

先生方にゆとりが生まれた

——デジタル採点の導入で先生方の作業が効率化して時間の余裕が出たと思いますが、その時間をどう活かしておられますか？

田中先生 空いた時間を何かに活かすというよりは、先生方にゆとりが生まれたことが大きいと思っています。働き方の部分で非常に

大切なことです。

山田先生 閻魔帳（生徒の成績を記録しておく一覧表）がいなくなったのが大きいですね。すべてデジタルで集計できるようになったのは非常に余裕が出ます。

小川先生 余裕が出たことで、採点に時間のかかる英作文の語数を増やすこともできるようになりましたね。テストの問題の作り方自体が変わってきた部分もあります。

田中先生 採点のデジタル化はこういう効果が出ると思っていましたが、本当に大きい変化だと感じています。

—— YouMark Personalの設定や操作にご苦労はなかったでしょうか？

田中先生 本当に最初だけです。今はもう私に聞いてくる教員もほとんどいません。周りの誰かがわかっているという状況もありますが、一度やってみたらあとは大丈夫だという感覚です。

山田先生 最初は私が一番わかってなかったくらいでした。最初の1回教えてもらった、2回目からはまったく問題ないですね。今は私が教えているくらいです。操作は非常に簡単だと思います。先日のGoogle Classroom連携も、データの紐付けで田中先生に少し手伝ってもらいましたが、難しくなかったです。

田中先生 Google Classroom連携も、そんなに難しいとは思わなかったですね。ほとんどの教員がすぐにできるようになると思います。

学年末考査翌日からの修学旅行という ピンチにも対応出来た

山田先生 数学の解法を書かせるような記述問題は当初は難しいと思っていました。解答のみを書かせる問題だけをデジタルで採点して、手採点の結果と合算していたんですね。でも、思い切ってYouMark Personalでやってみると、思っていた以上にやりやすかったです。現在は模範解答を画面の半分に表示し、生徒の解答1名分を画面の半分に表示する設定が良いと気づいて、さらに効率がアップしました。アンダーラインを引いたり、「ここまで何点」と書き込んだりという作業が思っていた以上に簡単でした。数学の教員にとっては一番抵抗があったのは記述式の解答でしたが、やってみたら非常に大きな効率アップになりました。

実は今回、コロナ禍の影響で、学年末考査の翌日から修学旅行という強行日程だったんですね。私は5日間の試験日程の最終日が試験実施日で採点時間が全然取れませんでした。とにかく事前にYouMark Personalの設定を済ませ、試験が終わったら答案のスクリーン画像をアップロードしておきました。修学旅行には答案を持って行けませんが、YouMark Personalならパソコンさえ持っていればどこでも採点ができます。修学旅行から帰ってきた翌日が答案返却の日程でしたので、YouMark Personalがなかったら、修学旅行に

行けませんでしたね。本当に助かりました。

コメント記入の機能をもっと充実させてほしい

—— YouMark Personalに何かご要望はありますか？

山田先生 先ほども申し上げたように、採点時にコメントを書き入れることがよくあります。「説明が不足しています」といった内容だったり、証明問題であれば「結論を使っているので得点になりません」といったりした内容を文字で書き込んでいます。このコメントは決まり文句が多いんですね。設問ごとには履歴が残るのですが、どのテスト、どの問題でも、アカウントで履歴が残って、そこから使えと非常に便利です。

小川先生 私も文字入力でのコメント記入はよく使います。アンダーラインを引いて、何故そこにラインを引いているのかの説明を書いたり、「よく来ています」というコメントを入れたりすることもありますし、「論理的でないです」といったコメントを入れたいシーンもありますが、毎回入力していました。履歴が残っていて、そこからコピーできると非常に助かります。

田中先生 コメントの入力機能を使う先生は多いですね。私もたまに書き込みます。答案上での生徒との対話、指導に活かします。ただ、コメントの入力ボックスが出てくるのが少し邪魔ですね。画面の上や右の端にずっといてくれたらいいなと思っていました。入力ボックスが解答の上に出るので採点のさまたげになります。動かしながら作業しています。また、採点後に配点が変われないというケースがたまにありますので、何らかの機能が欲しいですね。採点の修正ももっと分かりやすくなると嬉しいです。最後に、正答率や平均点が画面で一覧表示できたり、ファイルでダウンロード出来ると嬉しいですね。それくらいであれば完璧だと思いますよ。



※上記要望事項はいずれも佑人社内ですでに課題に上がっているもので、少しずつ改善していくことをお伝えしました。

セキュリティ

SECURITY

強固なセキュリティと安定した動作で、信頼性の高い運用を行っています。



24時間365日

24時間365日使用可能。突発的な障害にも迅速に対応します。



ウイルス対策

サーバーに対策ソフトを導入し、リアルタイムスキャンと定期的スキャンを実施しています。



定期的なバックアップ

定期的にバックアップを取り、万が一の障害発生時にもデータの復旧が可能です。



高負荷対策

高負荷になりやすいサーバは全て高スペックで構成。アクセス増加時などにも対応。



アクセス制限

特定の接続元以外は接続できないようにアクセス制限を設けています。



ファイアウォール

システムに不必要なポートを遮断し、セキュリティを向上しています。



サーバー冗長化

全てのサーバーを冗長化していますので、障害によるシステム停止はありません。



監視

サーバーとシステムの監視を常時行い、障害をいち早く検知可能です。



ログ管理

不正操作や不正アクセスなどセキュリティ上の問題に備えログを取得しています。

料金プランと機能

PRICE PLAN / FUNCTIONS

有料プランでは、無料プランの基本機能も含めたフル機能がご利用いただけます。

無 料

基本機能だけならずっと無料

無料プラン

料金 0円

任意のタイミングで1か月間、フル機能をお試しできます。
確認なく有料プランに変更されることはありません。

有 料

まずは少しずつデジタル採点を導入したいなら

人数 制限なし

従量課金プラン

答案1枚 10円

定期テストだけでなく、小テストでもたくさん利用するなら

枚数 制限なし

教員数定額プラン

年額 1万円／教師1名

年間の生徒一人当たりの採点枚数が多いなら

人数・枚数 制限なし

生徒数定額プラン

年額 500円／生徒1名

公立校ならお得に利用できます

人数・枚数 制限なし

公立校向け定額プラン

年額 中学 10万円／高校 15万円

※学校法人向けプランです。塾、その他一般企業向けプランは、従量課金プランのみとなります。 ※すべて税抜き価格です。 ※従量課金プラン・教員数定額プラン・生徒数定額プランでは、利用枚数または利用者数が満たない場合もご契約料金は10万円（税別）となります。利用枚数または利用者数が10万円（税別）を超える場合にはそれぞれのプランに応じた料金が加算されます。 ※公立義務教育学校は公立中学校と同様、公立中高一貫校・中等教育学校は公立高校と同様として扱います。

フル機能【有料プラン】

基本機能【無料プラン】

- テストの作成・設定
- 答案スキャン画像のアップロード
- テストの採点（○×、部分点）
- 採点結果CSVのダウンロード
- 採点結果PDFのダウンロード
- 提携出版社のテスト連携機能^{※1}

- テストのコピー
- 無回答の自動認識
- 2回採点機能
- ○×△一括採点機能
- 平均点・正答率の集計
- 答案のWEB連携^{※2}
- 記号問題の自動採点
- ペンツール（添削&スタンプ機能）
- 他の先生への採点依頼
- 観点別集計
- 成績票出力
- 設問情報CSV一括登録

※1 提携出版社のテストに関しては有料プランのフル機能が使えます。 ※2 Classi, CYBER CAMPAS, Google Classroom, Microsoft Teams（他、開発中）

お申し込みはホームページより

ホームページからお申し込みいただき、
アカウント発行後にご利用可能になります。

youmark personal



www.yu-jin.co.jp/personal/

スマートフォンの方
はこちらから



株式会社 佑人社

〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-43-17 KDXレジデンス千駄木 2F www.yu-jin.co.jp

